

授業科目名： 植物生態学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：西尾孝佳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
授業のテーマ及び到達目標 植物は動物とは異なり、資源獲得や繁殖のために移動することができない。しかし、私たちの観察方法を少し工夫するだけで、植物の様々な「動き」や「適応現象」－形態や生育時期を変える、他種と相互作用するなど－を垣間見ることができる。本講義では、植物の自然な暮らしを捉える上で必要となる用語と概念、理論を習得し、植物の生態を巡る諸現象を多面的に理解することを目標とする。			
授業の概要 個体、個体群、群集、生態系、景観の各レベルから植物の生き様を捉え、植物が自然をどう生き抜き、世代を重ねていくのかを解説する。また、私たち人間の活動が植物の生き様に与える影響や、近年、農林業、環境保全、生態系管理の現場などで注目されている「生物多様性」や「侵略的外来種」といったキーワードについても説明する。			
授業計画 第1回：植物の自然な暮らしを科学する 第2回：植物個体群とは？分布と量の視点から 第3回：植物個体群とは？個体群の構造と動態 第4回：有性生殖 第5回：無性生殖 第6回：成長過程I：種子散布および発芽、そして実生に至るまで 第7回：成長過程II：成長し、そして死に至るまで 第8回：個体群間の相互作用I：競争 第9回：個体群間の相互作用II：植食、寄生、共生 第10回：植物群落の基本的概念と多様性 第11回：植物群落の分布 第12回：植物群落の水平及び垂直構造 第13回：植物群落の動態I－ギャップ動態 第14回：植物群落の動態II－遷移と集合過程 第15回：景観スケールでの諸現象 定期試験			
テキスト 必要に応じて資料を配付			

参考書・参考資料等

テーマに合わせて適宜紹介する

学生に対する評価

学期末試験の結果(40%)、レポートの内容(30%)、授業への取り組み(30%)を総合的に評価

授業科目名： 植物生産環境学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：柏木孝幸 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
授業のテーマ及び到達目標 植物生産と環境との関係を理解し、持続可能な農業体系を確立する上で今後どのような栽培技術や育種目標が必要かを、自身で考えることができるようにする。			
授業の概要 動くことができない植物は芽生えた場所で、環境に適応する必要がある。本講義では、植物（特に、作物）をとりまく環境要因がどのように生育および収量に影響しているのかを理解する。そして、これら環境要因を栽培技術や育種により、どのように有効活用し、これまで生育や収量を向上させてきたのかについて学習する。			
授業計画 第1回：栽培植物の起源 第2回：光合成 第3回：作物の種類、特徴と栽培方法（食用作物） 第4回：作物の種類、特徴と栽培方法（飼料作物） 第5回：作物の種類、特徴と栽培方法（油料作物） 第6回：作物の種類、特徴と栽培方法（糖料作物） 第7回：作物の種類、特徴と栽培方法（その他作物） 第8回：根と根圏 第9回：養水分吸収と輸送 第10回：作物と土壌環境（水①） 第11回：作物と土壌環境（水②） 第12回：作物と土壌環境（養分①） 第13回：作物と土壌環境（養分②） 第14回：作物と土壌環境（養分③） 第15回：まとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 作物学の基礎I 食用作物、作物学の基礎II 資源作物・飼料作物（農山漁村文化協会）			
学生に対する評価 授業時に課す小レポートおよび小テスト（100%）			

業科目名： 動物生産環境学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：菱沼竜男 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
授業のテーマ及び到達目標 動物生産（特に家畜生産）の基本的なシステム、家畜の生理、飼育環境、飼養管理、ふん尿処理方法などについて理解し、家畜の特徴と飼養管理、ふん尿処理を説明できる。			
授業の概要 家畜生産で重要な、飼料、病気、畜舎施設、管理などの基本的な知識を修得し、家畜生産のしくみ、社会における家畜生産の役割と今日的な課題を理解する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：日本の食の概要 第3回：家畜と農業・日本の畜産の概要 第4回：家畜の飼養管理（栄養） 第5回：家畜の飼養管理（飼料） 第6回：家畜の飼養管理（管理・衛生） 第7回：家畜の飼養管理（行動とアニマルウェルフェア） 第8回：家畜の生産システム（養鶏） 第9回：家畜の生産システム（養豚） 第10回：家畜の生産システム（酪農） 第11回：家畜生産と環境問題 第12回：ふん尿処理システム（堆肥化） 第13回：ふん尿処理システム（汚水処理） 第14回：ふん尿処理システム（メタン発酵） 第15回：家畜生産システムの環境影響 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 家畜飼育の基礎，最新畜産学，畜産と気象，ほか			
学生に対する評価 定期試験（50%）、小テスト（50%）			

授業科目名： 田園生態学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：守山拓弥 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
授業のテーマ及び到達目標 生態学の基礎的な考え方を理解する。また、実際の公共事業等における環境配慮の考え方を習得する。			
授業の概要 生態学の基礎をふまえ、個体群生態学、景観生態学、環境倫理学、保全生態学などの各分野の考え方を学ぶとともに、田園生態系の特徴である二次的自然について学ぶ。さらに、環境影響評価や土地改良における環境との調和への配慮といった実際の公共事業等における環境配慮の事例などを学び、生態系保全の考え方を習得する。			
授業計画 第1回：ガイダンスおよび導入（田園生態学とは） 第2回：生物とは（種とはなにか） 第3回：生物の進化（進化論を考える） 第4回：生物の増殖（生物たちの繁殖戦略） 第5回：生活史（生物の生老病死） 第6回：個体群（populationを考える） 第7回：群集（動物の群れと社会） 第8回：景観（生態系の空間的広がり） 第9回：人為と生態系（二次的自然を考える） 第10回：水田生態系（日本の水田の成り立ちと生態系の関係） 第11回：環境倫理（自然を守る意味を考える） 第12回：保全生態学（生態系を守るための応用学問） 第13回：生態系保全の実践その1（環境影響評価） 第14回：生態系保全の実践その2（土地改良における環境との調和への配慮） 第15回：生態系保全の実践その3（自然再生活動）			
定期試験			
テキスト clearningにて各回の資料を配布			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			

学期末試験 (50%) 、レポート (50%)

授業科目名： 野生動物被害管理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小寺祐二 担当形態：単独
科 目	科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
授業のテーマ及び到達目標 野生動物管理では、「野生動物」と「生息地」、それらに影響を与える「人間と野生動物との関係」について理解を深めつつ、野生動物の保全を進める必要がある。地域社会の諸問題を総合的に捉えて、課題解決のための科学的な計画・目標の立案・実践を担うこと、地域住民主体の被害対策実現のための社会教育を実施できるようになることを目指す。			
授業の概要 本科目では「人間と野生動物との関係」に深く関わる野生動物に起因する農林業等被害管理について、技術的側面だけではなく、人間社会との関係性を理解しつつ、軋轢解消するためのプロセスを学ぶ。			
授業計画 第1回：野生動物の価値 第2回：野生動物管理とは 第3回：日本における野生動物と人の関係史 第4回：被害対策の基礎Ⅰ 第5回：被害対策の基礎Ⅱ 第6回：農業被害の実態 第7回：農業被害対策の立案 第8回：農業被害の軽減技術Ⅰ 第9回：農業被害の軽減技術Ⅱ 第10回：農業被害の軽減技術Ⅲ 第11回：農業被害軽減のための動物捕獲Ⅰ 第12回：農業被害軽減のための動物捕獲Ⅱ 第13回：農業被害軽減のための動物捕獲Ⅲ 第14回：林業被害の実態 第15回：林業被害の軽減技術			
テキスト 講義資料を適宜配付する。			
参考書・参考資料等 参考書「なぜ経済は自然を無限ととらえたか」中村修 日本経済評論社			

「保全生物学のすすめ」リチャード B プリマック・小堀洋美 文一総合出版

「森林と野生動物」小池伸介・山浦悠一・滝久智 共立出版

「エントロピーの法則」ジェレミー リフキン・竹内均 祥伝社

「イノシシを獲る」小寺祐二 農文協

「理系のための交渉学入門」一色正彦・田上正範・佐藤裕一 東京大学出版会

学生に対する評価

小テスト (50%)とレポート (50%)によって評価する。

授業科目名： 流域水文学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松井宏之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
授業のテーマ及び到達目標 地域水資源・水環境の把握と評価のための基礎知識として、流域水循環、降雨流出過程の原理を理解するとともに、治水・利水対策を含む水資源・水環境管理のための基礎的手法として、水文統計解析手法、及び水文流出現象に関する解析手法、水資源開発・管理手法を修得する。			
授業の概要 水文学が対象とするのは水循環であり、なかでも本授業では流域における水循環を主たる対象とする。本講義では、水資源・水環境の把握と評価のための基礎知識について学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス、水文学（すいもんがく）とは 第2回：水循環と水収支 第3回：降水（1）気象と降水 第4回：降水（2）DAD解析、頻度分析 第5回：地表面の熱収支 第6回：降水（3）雪 第7回：蒸発散 第8回：理解度確認およびその解説 第9回：地表水（その1） 第10回：地表水（その2） 第11回：地下水 第12回：流出解析（その1） 第13回：流出解析（その2） 第14回：貯水施設 第15回：鬼怒川の水文・水資源			
定期試験			
テキスト 自作の教科書を学習支援システムにおいて公開する。			
参考書・参考資料等 例題で学ぶ水文学、椎葉ら、森北出版、地域環境水文学、田中丸ら、朝倉書店			
学生に対する評価			

中間試験（40%），期末試験（40%），レポート（20%）。

授業科目名： 治山砂防学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：酒井佑一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>土砂災害を軽減するための治山砂防分野の技術及びそれに関連する水文学、土質力学、水理学などの基礎知識を習得します。また、工学的な災害対策ばかりでなく、森林の維持造成、警戒避難などのソフト的な災害対策などの広い視点から森林の多面的機能を理解することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>災害が発生する原因は、地質、地形、植生などの素因と雨や地震などの引き金となる誘因に大別できます。それらの個々の要素による災害発生機構について解説するとともに、工学的な対策、生物学的な対策について紹介する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：流域における水・土砂の動き</p> <p>第3回：日本の気象と土砂災害</p> <p>第4回：日本の地形・地質と土砂災害</p> <p>第5回：山地の荒廃と緑化</p> <p>第6回：山地斜面における水文過程</p> <p>第7回：斜面崩壊のメカニズム</p> <p>第8回：水理学の基礎1</p> <p>第9回：水理学の基礎2</p> <p>第10回：土砂水理学の基礎</p> <p>第11回：土石流のメカニズム</p> <p>第12回：土砂災害のハード対策</p> <p>第13回：土砂災害のソフト対策</p> <p>第14回：火山・地震砂防</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>・丸谷知己編「砂防学」朝倉書店</p>			

- ・ 林拙郎著「自然環境保全のための保全砂防学入門」電気書院
- ・ 中村太士・菊沢喜八郎編「森林と災害」共立出版
- ・ 塚本良則・小橋澄治編「新 砂防工学」朝倉書店
- ・ 武居有恒編「砂防工学」文永堂出版

学生に対する評価

授業への取組（30%）、期末試験（70%）を統合して評価する。

授業科目名：気候変動へのレジリエンス	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：酒井佑一、逢沢峰昭、松井宏之 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 理科）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>レジリエンスとは「これからを生き抜くために不可欠な回復力や適応力」を意味する。本講義では、地域社会や農林業界における気候変動へのレジリエンス構築に貢献する能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>気候変動がもたらす気温上昇、降水パターンの変化、自然災害の頻度増加などが耕地生態系および森林生態系に与える影響、それぞれの生態系の変化が人間生活に与える影響を理解し、効果的な対応策や戦略を探求する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（担当：松井宏之）</p> <p>第2回：気象の変化(気温)（担当：松井宏之）</p> <p>第3回：気象の変化(降水)（担当：松井宏之）</p> <p>第4回：水循環への影響と対策（担当：酒井佑一）</p> <p>第5回：耕地生態系への影響と対策（温度①）（担当：松井宏之）</p> <p>第6回：耕地生態系への影響と対策（温度②）（担当：松井宏之）</p> <p>第7回：耕地生態系への影響と対策（温度③）（担当：松井宏之）</p> <p>第8回：耕地生態系への影響と対策（水①）（担当：松井宏之）</p> <p>第9回：耕地生態系への影響と対策（水②）（担当：松井宏之）</p> <p>第10回：森林生態系への影響と対策（温度①）（担当：逢沢峰昭）</p> <p>第11回：森林生態系への影響と対策（温度②）（担当：逢沢峰昭）</p> <p>第12回：森林生態系への影響と対策（温度③）（担当：逢沢峰昭）</p> <p>第13回：森林生態系への影響と対策（土砂災害①）（担当：酒井佑一）</p> <p>第14回：森林生態系への影響と対策（土砂災害②）（担当：酒井佑一）</p> <p>第15回：まとめ（担当：酒井佑一、逢沢峰昭、松井宏之）</p>			
<p>テキスト</p> <p>とくに定めない</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>東京大学 気候と社会連携研究機構（編）気候変動と社会：基礎から学ぶ地球温暖化問題，東京大学出版会</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

それぞれの教員が課すレポート(100%)

授業科目名： 森林科学実験	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：石栗太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
授業のテーマ及び到達目標 本実験では、森林科学のうち、特に林産学に関する実験を行い、林産物の性質とその利用に関して理解を深めることを目的とする。また、基礎的な実験を行いながら、実験機器の取り扱いについても理解する。			
授業の概要 第1～5回は、木本植物の茎となる二次木部（木材）の構造を各種方法で観察する。第6～7回では、木材の物理的・力学的性質を実験する。第8～10回では、木材の化学的性質を実験する。第11～15回では、木材方法に関連した項目を実験する。			
授業計画 第1回：木材組織1（肉眼による識別） 第2回：木材組織2（肉眼による識別） 第3回：木材組織3（顕微鏡による識別） 第4回：木材組織4（顕微鏡による識別） 第5回：木材組織5（顕微鏡による識別） 第6回：木材材料1（物理的性質） 第7回：木材材料2（力学的性質） 第8回：木材化学1（アルカリ抽出） 第9回：木材化学2（ホロセルロースの定量） 第10回：木材化学3（リグニンの定量） 第11回：木材化学4（パルプ製紙） 第12回：木材加工1（モデル集成材の製造） 第13回：木材加工2（モデル集成材の製造） 第14回：特用林産1（木材炭化） 第15回：特用林産2（きのこ栽培）			
定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 木質科学実験マニュアル（文永堂）			
学生に対する評価			

レポート（100％）で評価する。

授業科目名：測量・環境計測学	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：大島潤一、守山拓弥 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>測量・環境計測学は、技術者が必要とする基本的な測量技術および環境評価手法、使用機器の特性・使用方法、野帳記載方法、測量計算法、環境計測データの分析方法を理解し、測量・環境計測の知識と技術を習得するとともに、技術者としての倫理観を身につけることを目標とする。具体的には測量士補試験に合格する程度の知識を獲得することを目標におく。</p>			
授業の概要			
<p>測量・環境計測学では、農業生産基盤の整備、森林管理や地域環境の保全修復に必要とされる測量および環境評価手法に関する知識・技術を習得する。具体的には、農林業における生産基盤整備の計画・設計・施工管理などで求められる各種測量に関する基礎理論、測量機器の特性・使用方法、測量野帳の記載方法、測量の計算法について講義を行う。また、農林業に係る環境の状況を把握するために必要な環境評価手法に関する基礎理論、環境計測機器の特性・使用方法、環境計測データの分析方法について解説する。</p>			
授業計画			
第1回：測量学概論（担当：大島潤一）			
第2回：トラバース測量：機械の構造と使用方法（担当：大島潤一）			
第3回：トラバース測量：水平角の測定法、角度測定の精度と誤差（担当：大島潤一）			
第4回：トラバース測量：トラバースの調整と計算（担当：大島潤一）			
第5回：コンパス測量：機械の構造と使用方法（担当：大島潤一）			
第6回：コンパス測量：方位角の測定法、角度測定の精度と誤差（担当：大島潤一）			
第7回：水準測量：直接・間接水準測量、器高式と昇降式（担当：守山拓弥）			
第8回：水準測量：水準測量の誤差と調整、水準網計算（担当：守山拓弥）			
第9回：平板測量：平板の標定、図解法、スタジア測量（担当：守山拓弥）			
第10回：平板測量：基準点測量と細部測量、平板測量の誤差（担当：守山拓弥）			
第11回：三角測量：三角測量の原理、偏心補正、三角鎖の調整（担当：守山拓弥）			
第12回：GNSS測量：GNSS測量の原理、GISの活用（担当：守山拓弥）			
第13回：環境計測学：環境計測Ⅰ（担当：守山拓弥）			
第14回：環境計測学：環境計測Ⅱ（担当：守山拓弥）			
第15回：環境計測学：環境計測Ⅲ（担当：守山拓弥）			
定期試験			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

参考書：図解測量学要論、吉澤孝和、日本測量協会

参考書：新版測量学（上）・（下）、丸安隆和、コロナ社

参考書：改訂版測量学1基礎編、森忠次、丸善

参考書：考え方解き方測量、近畿高校土木会編、オーム社

参考書：測量要論、佐藤俊朗、共立出版

参考書：やさしいGPS測量、土屋淳・辻宏道、日本測量協会

学生に対する評価

期末試験結果（70%）および提出課題（30%）を勘案して評価する。

業科目名： バイオマス利用管理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石栗太、菱沼竜男
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林から主に生産される木質バイオマスの特徴とその利用法について理解する。</li> <li>・ 農畜産系バイオマスの主要な利活用技術とシステムおよび評価方法を理解する。</li> </ul> <p>木質および農畜産系バイオマスの特徴を理解し、森林や農畜産と関連付けたバイオマスの利用管理方法や評価を考えることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>森林から主に生産される木質バイオマスがどのような特徴をもち、どのように利用されているかについて学ぶ。農畜産系バイオマスの特徴や主要な変換技術、利活用システムおよび総合的な評価手法について幅広く学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（担当：石栗・菱沼）</p> <p>第2回：木質バイオマスの特徴と利活用（概論）（担当：石栗）</p> <p>第3回：木質バイオマスの生物的特徴（担当：石栗）</p> <p>第4回：木質バイオマスの物理的特徴（担当：石栗）</p> <p>第5回：木質バイオマス化学的特徴（担当：石栗）</p> <p>第6回：木質バイオマスの生産（担当：石栗）</p> <p>第7回：木質バイオマスの利用（担当：石栗）</p> <p>第8回：木質バイオマスの最新研究（担当：石栗）</p> <p>第9回：農畜産系バイオマスの特徴と利活用（概論）（担当：菱沼）</p> <p>第10回：マテリアル利用Ⅰ（飼料化处理）（担当：菱沼）</p> <p>第11回：マテリアル利用Ⅱ（堆肥化处理）（担当：菱沼）</p> <p>第12回：エネルギー利用（メタン発酵処理）（担当：菱沼）</p> <p>第13回：浄化处理（排水処理）（担当：菱沼）</p> <p>第14回：バイオマス利活用の評価（物質フローの把握）（担当：菱沼）</p> <p>第15回：バイオマス利活用の評価（環境影響評価）（担当：菱沼）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

木材学，バイオマス利用工学

学生に対する評価

石栗担当分（50%）：期末試験（50%），菱沼担当分（50%）：小テスト（40%）＋レポート（10%）

授業科目名：測量・環境計測学実習	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大島潤一、守山拓弥
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>各種測量・環境計測機器の使用法、測量野帳の記載法、測量の計算法、環境計測データの分析方法を体系的に修得するとともに、技術者としての倫理観を身につけることを目標とする。また、測量・環境計測を単独あるいはチームで実行して得られたデータを正しく解析する能力を養うことを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>測量・環境計測学で修得した知識に基づき、測量・環境計測機器の使用法、測量野帳の記載方法、測量の計算法、測量図面の作成、環境計測データの分析方法など幅広い測量・環境計測手法について実習を行い、農業生産基盤の整備、森林管理や地域環境の保全修復に必要とされる実践的な測量・環境計測技術の習得を図る。また、チームで測量・環境計測を実施し、得られた結果を正しく解析する能力並びに技術者としての倫理観を養成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：実習ガイダンス（担当：大島潤一）</p> <p>第2回：トラバース測量：セオドライトの操作と測角（担当：大島潤一）</p> <p>第3回：トラバース測量：水平角測定（担当：大島潤一）</p> <p>第4回：トラバース測量：トラバースの計算（トランシット法則による調整）、製図（担当：大島潤一）</p> <p>第5回：コンパス測量：コンパスの操作と測角（担当：大島潤一）</p> <p>第6回：コンパス測量：トラバースの計算（コンパス法則による調整）、製図（担当：大島潤一）</p> <p>第7回：水準測量：高低差測定（器高式による標高計算）（担当：守山拓弥）</p> <p>第8回：水準測量：高低差測定（昇降式による標高計算）（担当：守山拓弥）</p> <p>第9回：平板測量：アリダードと平板の基本操作（担当：守山拓弥）</p> <p>第10回：平板測量：導線法による基準点測量、細部測量、製図（担当：守山拓弥）</p> <p>第11回：三角測量：三角測量、単列三角鎖の平均計算（担当：守山拓弥）</p> <p>第12回：GNSS測量：GNSS測位、ドローン測量（担当：守山拓弥）</p> <p>第13回：環境計測学実習：環境計測Ⅰ（担当：守山拓弥）</p> <p>第14回：環境計測学実習：環境計測Ⅱ（担当：守山拓弥）</p> <p>第15回：環境計測学実習：環境計測Ⅲ（担当：守山拓弥）</p>			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

参考書：図解測量学要論、吉澤孝和、日本測量協会

参考書：よくわかる測量実習、細川吉晴ら、コロナ社

参考書：考え方解き方測量、近畿高校土木会編、オーム社

学生に対する評価

実習毎に課す提出課題（100%）で評価する。

授業科目名： 農地環境学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大澤和敏 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 農地保全手法及び農地と環境との関わり、効率的な食料生産に必要な農地組織の条件と整備手法などについて理解することを目標とする。			
授業の概要 農業活動が自然環境へ大きなインパクトを与えている現況に対応して、農地の適切な管理・保全技術を科学的根拠に基づいて確立させることを学ぶ。本講義では農村、農地、農業生産のあり方を多面的に考え、農業基盤と地域環境基盤の要である水田や畑地の物理的・工学的管理手法と展開を学ぶ。また、農業農村整備事業が地域社会に果たす役割と課題について解説する。			
授業計画 第1回：農地工学の意義，農地の役割 第2回：農村農地の多面的機能 第3回：水田の土壌，水田の灌漑 第4回：水田の排水 第5回：水田の地耐力，水田の汎用化 第6回：水田の圃場整備，換地 第7回：圃場整備の土工，干拓，大区画・傾斜地の水田整備 第8回：畑地の土壌，畑地の灌漑・排水 第9回：畑地の圃場整備 第10回：土層改良，畑地の造成 第11回：農地保全（水食の原理） 第12回：農地保全（水食の予測法） 第13回：農地保全（水食のシミュレーション演習） 第14回：農地保全（風食），農地防災（地すべり等） 第15回：農業農村整備事業と法律			
テキスト 教科書：「農地環境工学（第2版）」文永堂出版 *講義ごとに授業用テキストを配布する。			
参考書・参考資料等 「農業土木ハンドブック」農業土木学会			

学生に対する評価

レポート(50%), 小テスト(50%)で評価する。

授業科目名： 応用数学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大澤和敏 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>本講義の到達目標は、関数の展開、偏微分、常微分方程式の意味が理解でき、初歩的計算ができると共に、それらを応用して現象の定式化や解析の道具として使うことができるようになることである。また例題や課題で取り上げられる環境システム科学の関連分野や身の回りの現象への適用を通し、工学的手法の有用性を理解することも到達目標としている。</p>			
授業の概要			
<p>環境システム科学が関連する分野では、いろいろな現象が数式によって表され有効に使われている。ここでは、その中で不可欠となる関数の展開、偏微分、常微分方程式の基礎的な部分を学ぶ。なお、工学的に利用することを念頭に、厳密さは多少犠牲にしつつも感覚的に理解できるように説明する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：関数の展開（テイラー展開、マクローリン展開、オイラーの公式）  第2回：偏微分の直感的意味と計算方法  第3回：偏微分の応用（最小二乗法）  第4回：全微分と合成関数の微分法  第5回：陰関数の微分法と極値  第6回：微分方程式による現象解明のプロセス  第7回：常微分方程式の解法(1)変数分離形  第8回：微分方程式による現象の定式化（自由落下、温度平衡）  第9回：常微分方程式の解法(2)同次形  第10回：微分方程式による現象の定式化（ロジスティック成長モデル）  第11回：常微分方程式の解法(3)1階線形微分方程式（定数変化法）  第12回：微分方程式による現象の定式化（雨滴の落下、沈砂）  第13回：常微分方程式の解法(4)2階線形微分方程式（斉次）  第14回：常微分方程式の解法(5)2階線形微分方程式（非斉次）  第15回：微分方程式による現象の定式化（生態系(種の競争)）</p>			
テキスト			
<p>新微分積II、大日本図書  *講義資料および演習問題を適宜配布する。</p>			
参考書・参考資料等			

微分方程式で数学モデルを作ろう 垣田・大町訳 日本評論社

学生に対する評価

レポート(45%)と小テスト(55%)で評価する。

授業科目名： 空間情報工学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松英恵吾 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 農地、森林などの土地利用の管理計画には現状把握、モニタリングが必要となる。その中心的技術であるリモートセンシング、GIS（地理情報システム）、GNSS（衛星測位システム）等の空間情報工学技術について講義および実データを使用した演習を通して実践的に活用できるような知識能力を習得する。			
授業の概要 対象が広域で多様性を持っている農地および森林の現状把握、モニタリングに必要となるリモートセンシング、GIS（地理情報システム）、GNSS（衛星測位システム）等の空間情報工学技術について講義する。			
授業計画 第1回：空間情報工学の概要 第2回：GISの概要 第3回：RS（リモートセンシング）の概要 第4回：GNSSの概要 第5回：地図座標系 第6回：GISによる空間解析（主題図作成） 第7回：GISによる空間解析（農地・森林における応用） 第8回：電磁波と分光反射特性 第9回：プラットフォームとセンサ 第10回：グランドトゥールースと幾何補正 第11回：画像処理（前処理、可視化） 第12回：画像処理（変化抽出、時系列解析） 第13回：画像処理（分類） 第14回：空中写真測量 第15回：点群データの活用 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 森林リモートセンシング第4版、加藤正人著、日本林業調査会			

学生に対する評価

学期末の試験結果（90％）および各回の振り返り課題（10％）を勘案して評価する。

授業科目名： 圃場機械学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松井正実 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>農業機械が対象とする土や栽培環境，植物およびその物性などの農学的知識をもとに，農作業における機械化システムを理解し，生産環境システムの工学的設計や利用の知識および技術を習得し，農業生産，農作業現場等での問題解決を実践できる能力を身につけます。</p>			
授業の概要			
<p>生物生産環境を効率的に整える手段が農業機械です。圃場機械は過酷な圃場作業を効率化・軽労化する農業機械で，圃場における土や栽培環境，植物およびその物性などの農学的知識と，機械設計や製造技術などの工学的知識によって成り立っています。本講義では圃場作業における機械システムについて解説します。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス：講義の概要と進め方、成績評価の方法、参考書等の説明			
第2回：農業生産と農業機械(1) 農業機械の利用とその現状			
第3回：農業生産と農業機械(2) 農業機械と安全作業			
第4回：原動機の構造と整備(1) 電動機			
第5回：原動機の構造と整備(2) 外燃機関と内燃機関			
第6回：原動機の構造と整備(3) ガソリンエンジンとディーゼルエンジン			
第7回：原動機の構造と整備(4) 燃料・潤滑油の種類と特徴			
第8回：トラクタの構造と整備(1) トラクタの構造と各部の機能			
第9回：トラクタの構造と整備(2) トラクタの操作と安全作業			
第10回：トラクタの構造と整備(3) 歩行トラクタの構造と安全作業			
第11回：作業機の構造と利用(1) 耕うん整地用機械			
第12回：作業機の構造と利用(2) 稲作用機械			
第13回：作業機の構造と利用(3) 野菜・畑作用機械			
第14回：作業機の構造と利用(4) 飼料作物用機械			
第15回：作業機の構造と利用(5) 防除用機械			
定期試験			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
農業機械の構造と利用（農文協），農業機械入門（実教出版）			

学生に対する評価

定期試験（80％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20％）

授業科目名： 水利環境工学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松井宏之 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この講義は農業農村工学に関わる技術者として要請される、①灌漑開発の考え方、②水田および畑地における用水量の仕組みと調査手法・計算法、③農地排水の考え方・計画手法、④農地およびその周辺における水質環境の基本的知識を修得することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>農地（水田、畑地）における灌漑手法、用水量の構成要素・決定手法を学ぶとともに、農地における排水方法や排水計画、農地・農村における水質環境について学ぶ</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、水田灌漑計画（1）特徴、用水量の構成と決定手順、用水量計画の前提条件  第2回：水田灌漑計画（2）圃場レベルの用水量1  第3回：水田灌漑計画（3）圃場レベルの用水量2  第4回：水田灌漑計画（4）水田灌漑用水量  第5回：水田灌漑計画（5）用水配分計画  第6回：畑地灌漑計画（1）概説・土壌水分定数・TRAM  第7回：畑地灌漑計画（2）消費水量・計画灌漑水量  第8回：畑地灌漑計画（3）灌漑方法  第9回：畑地灌漑計画（4）灌漑施設  第10回：施設計画  第11回：排水計画・ポンプ場  第12回：農業水利に関するトピック  第13回：水質指標とサンプリング  第14回：面源汚濁  第15回：浄水処理・下水処理</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>資格試験のための農業農村工学必携第二版、公益社団法人 農業農村工学会</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>水利環境工学、朝倉書店</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>中間試験（40%）、期末試験（40%）、レポート（20%）により評価する。</p>			

授業科目名： 樹木・造林学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：逢沢峰昭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 森林を構成する樹木の特性、種類、分布といった基礎的知識を習得した上で、森林土壌、林木の育種、森林の更新・保育に関する知識を習得して、環境保全に配慮した持続的な木材生産について考えられる人材を目指す。			
授業の概要 森林を構成する樹木とは何か、学名のルール、識別ポイントとなる葉や花などの形態、成長・競争について学ぶ。その上で、我々が森林資源を持続的に利用していく上で必要な森林生産技術を支える知識へとつなげていく。そのために、適地適木の理解に欠かせない森林の成立基盤となる森林土壌について学ぶ。また、森林の世代交代（更新）に用いる種苗や林木育種の方法について学ぶ。さらに、森林の更新、保育（下刈り、つる切り、除伐、間伐、枝打）、木材生産のための造林技術について学ぶ。			
授業計画 第1回：樹木とは？ 第2回：樹木の名前 第3回：樹木の基本形態 第4回：樹木の地理的分布、生育環境 第5回：樹木の成長・競争 第6回：現在の造林学 第7回：森林の土壌：土壌生成因子、風化作用、母材、地形、生物 第8回：森林の土壌：土壌調査法 第9回：森林の土壌：土壌の理化学性 第10回：林木の育種：選抜育種、遺伝率、特定母樹 第11回：林木の育種：採種園の設計、種苗生産、花粉対策のための林木育種 第12回：林木の育種：林業種苗法、林業品種、種子 第13回：造林：苗木の養成、針葉樹林の人工造林（更新） 第14回：造林：針葉樹林の人工造林（保育、間伐法） 第15回：造林：天然更新 定期試験			
テキスト なし			

**参考書・参考資料等**

邑田 仁・米倉浩司（2012）日本維管束植物目録．北隆館

濱谷稔夫（2008）樹木学．地球社

伊藤元己（2013）植物分類学．東京大学出版会

清水建美（2001）植物用語事典．八坂書房

森林土壌研究会編（1993）森林土壌の調べ方とその性質．林野弘済会

丹下健・小池孝良編（2016）造林学（第四版）．朝倉書店

井出雄二・白石進編（2012）森林遺伝育種学．文永堂出版

川名明ほか（1986）造林学（三訂版）．朝倉書店

**学生に対する評価**

定期試験（60％）、毎回の授業後に提出する課題（40％）

授業科目名： 森林計画学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松英恵吾 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>森林は日常生活に必要な林産物を生産するとともに生活環境を保全するためにも必要である。この両者のバランスをとった森林資源の管理計画を考える際に基本的に必要となる知識と理論、技術について講義し、森林資源管理計画を立案できる能力を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>森林は日常生活に必要な林産物を生産するとともに生活環境を保全するためにも必要である。この両者のバランスをとった森林資源の管理計画を考える際に基本的に必要となる森林の調査、評価、成長予測、森林計画立案、施業の実行、照査の過程について講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：森林計画学の概要 第2回：樹木の計測 第3回：森林の計測 第4回：森林の成長予測 第5回：森林の評価 第6回：森林の多面的機能評価 第7回：森林計画制度 第8回：持続可能な森林管理 第9回：技術者倫理と森林認証制度 第10回：収穫規整 第11回：最適輪伐期 第12回：恒続林思想と森林美学 第13回：数理計画 第14回：減反率による地域資源の動向予測 第15回：森林経営計画への森林空間情報工学の活用</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>森林計画入門、田中和博・吉田茂二郎・白石則彦・松村直人編、朝倉書店</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

学期末の試験結果（90％）および各回の振り返り課題（10％）を勘案して評価する。

授業科目名： 食農原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：西山未真 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 受講者が将来、農学分野の専門性を身につけるための、共通認識としての農学の定義、農学の哲学を身につけることを目的とする。			
授業の概要 食農原論では、基本的に「農学論」、「農学の哲学」、「農学倫理」をベースとしながら、農学の過去・現在・未来を考える素材を提供する講義を行う。特に現代社会は、食と農（食の生産（地）と消費（地））がグローバルレベルに乖離しており、それが要因として様々な社会問題が露呈している。そのことを特に意識して、農業あるいは、食と農のあり方を過去・歴史から学び、現在位置を示し、農学の未来として、科学としての農学、食と農の社会としての選択を考える講義である。			
授業計画 第1回：農学原論とは（1） 第2回：農学原論とは（2） 第3回：農学の哲学 第4回：農学科学の特質 第5回：日本農学の歩み 第6回：近代農学の特質 第7回：自然に関わる農学の基準 第8回：環境と多様性 第9回：生命と倫理 第10回：家畜と人間生活（1） 第11回：家畜と人間生活（2） 第12回：食農システム（1） 第13回：食農システム（2） 第14回：ゲストスピーカーによる講義「農学と私」 第15回：農学の未来を考える			
テキスト 各教員が作成したテキスト（資料）を受講生に配布する。			
参考書・参考資料等			

特に指定しないが、参考図書などは各教員が授業中に紹介する。

学生に対する評価

レポートで成績評価する (100%)

授業科目名： 林産物産業論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：林宇一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林からの生産物は、木材生産及び特用林産が挙げられる</li> <li>・ このため、木材生産及び特用林産の現状を理解する</li> <li>・ 特に木材生産は、製材、合板、紙パルプが主な用途であるため、これらの生産について需要動向も絡めながら理解する</li> <li>・ 特用林産は、生産額が木材生産額とほぼ同額に現在あること、その上で特用林産の中でもキノコ、薪炭等の生産、需要動向を理解する</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>森林から得られる資源は、大きく木材資源と非木材資源に分けられ、非木材資源はきのこや竹などを指し、一般に特用林産として扱われる。木材資源は、栃木県で強い製材品の他、製紙・パルプ、合板、バイオマスなど需要用途は多岐にわたる。本講義では、これらについて生産、流通、消費を含めた産業構造全体を扱うが、特に森林・林業と関連性の高い木材産業について重点的に講義を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：針葉樹森林の特徴と造成</p> <p>第2回：用途に応じた造材の特徴I</p> <p>第3回：用途に応じた造材の特徴II</p> <p>第4回：原木市場と仕訳機能I</p> <p>第5回：原木市場と仕訳機能II</p> <p>第6回：製材工場と製材品の特徴I</p> <p>第7回：製材工場と製材品の特徴II</p> <p>第8回：合板工場と合板の特徴I</p> <p>第9回：合板工場と合板の特徴II</p> <p>第10回：紙パルプ工場と紙パルプの特徴I</p> <p>第11回：紙パルプ工場と紙パルプの特徴II</p> <p>第12回：バイオマス工場とバイオマスの特徴</p> <p>第13回：キノコ生産の特徴I</p> <p>第14回：キノコ生産の特徴II</p> <p>第15回：薪炭生産の特徴</p> <p>期末試験または最終課題</p>			

テキスト 特になし
参考書・参考資料等 文部科学省著作教科書『林産物利用』，実教出版株式会社発行
学生に対する評価 授業への参加度及び最終課題・試験を用いて総合的に評価する

授業科目名： 農業経済学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：福田竜一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 食料・農業・農村をめぐる社会経済問題の理解と課題解決に必要な思考力と応用力を習得する。			
授業の概要 食料・農業・農村の社会経済問題を考えるために必要な農業経済学の基礎を講義する。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：世界の食料問題 第3回：農業の特質 第4回：農業生産の特質 第5回：農産物の需要と供給 第6回：農業と環境 第7回：日本農業の概況 第8回：食生活の成熟と食料自給率 第9回：日本のフードシステム 第10回：中間試験 第11回：古典派の貿易理論 第12回：新古典派の貿易理論 第13回：農産物貿易政策 第14回：GATT/WTOにおける農産物貿易問題 第15回：FTA/TPPと農産物貿易問題 定期試験			
テキスト 荏開津典生・鈴木宣弘「農業経済学 第5版」岩波書店			
参考書・参考資料等 生源寺眞一「農業と人間——食と農の未来を考える」岩波書店、薬師寺 哲郎・中川隆「フードシステム入門：—基礎からの食料経済学」建帛社			
学生に対する評価 中間試験と定期試験で評価する。			

授業科目名： 人と森林の千年史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本美穂 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・農業の関係科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地理学的、経済構造的、制度的な要因によって、現時点での森林の姿がいかにより形成されてきたのか、それは将来世代の森林利用にどのような知見を残しているのかについて理解を深めることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>原生的自然を含む殆どすべての森林は、過去いずれかの時点で何らかの人間の営みを受けてきた結果としての姿である。森林科学の体系のなかには様々なスケールの時間軸が登場するが、本講義が扱うのは、そのなかで人間の尺度を基に展開する森林の歴史である。古代から明治期に至るまでの主に日本の森林の開発と保全の歴史について講述する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：序 森林の劣化・再生と人間の関係史－欧州森林開発史より－  第2回：日本の古代人と森林  第3回：奈良・平安期：遷都と寺院建設ブーム  第4回：鎌倉・室町期：「木の文化」開花と木材不足  第5回：江戸期：－森林荒廃、木材不足、災害多発、リサイクル  第6回：採取林業から育成林業へ－木曾・秋田・吉野－（1）  第7回：採取林業から育成林業へ－木曾・秋田・吉野－（2）  第8回：近代「夜明け前」の森林／各藩の林制（1）  第9回：近代「夜明け前」の森林／各藩の林制（2）  第10回：近世「江戸地廻り経済圏」と那珂川水運  第11回：林野の「官民有区分」（1）－林野所有はどのように決まったか－  第12回：林野の「官民有区分」（2）－土地と人々－  第13回：近代林学と「林政」のあり方  第14回：篠原家住宅見学（幕末～維新期の住居）  第15回：何故日本では森林が残ったのか？</p>			
<p>テキスト</p> <p>毎講義時に配布（オンライン上にアップ）。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>コンラッド・タットマン著／熊崎実訳「日本人はどのように森をつくってきたのか」築地書館、1998年、ISBN4-8067-2240-5、2400円、徳川林政史研究所編「徳川の歴史再発見 森林の江戸</p>			

学」東京堂出版、2012年、ISBN978-4-490-20764-4、2800円ほか

学生に対する評価

毎講義時の小課題と期末課題によって評価する。

授業科目名： 農村の安全と安心の科 学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田村孝浩 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>この講義では、農業経営の安定性と持続性を規定するリスクやハザードの事例に基づいて、農業農村の安全と安心について理解を深めることをテーマとしている。講義を通じて習得した知識と理論に基づいて、課題の所在を発見する力、問題構造を紐解く力、様々な知識を駆使して問題解決を図る力の素養を習得することを授業の到達目標としている。</p>			
授業の概要			
<p>私達が暮らす地域や農業経営の現場では、地球規模で進む気候変動や突発的な災害など、個人的な努力では避けることのできない事象に直面せざるを得ないことがある。経営の安定性と持続性を考えた時に大切なのは、こうした事象に備えた準備や対応、つまり危険事象を正確に捉え、被害を最小限に抑えるリスクマネジメントの考え方である。</p> <p>この講義では、農業経営の安定性と持続性を規定するリスクやハザードを採り上げ、科学的な観点から農業農村の安全と安心について学ぶ。具体的には、農作業事故の発生プロセスとそのリスク管理、労働災害に関する法令と保険制度、生産物や飼育動物の盗難による経営損失、さらには種々のトラブルに備えた農業版BCPの考え方など、農業農村の現場で発生する種々のトラブルを題材として、その問題が発生するプロセスや対処方法について社会学や工学などの観点から講述を行うとともに、グループ討議を行う。</p>			
授業計画			
第1回：農業・農村の安心と安全を学ぶことの意味（ガイダンス）			
第2回：リスクの評価とリスクマネジメント			
第3回：リスクコミュニケーション			
第4回：農業と農村を取り巻く危険事象1			
第5回：農業と農村を取り巻く危険事象2			
第6回：農業経営と農作業安全			
第7回：農作業事故の実態と事故調査			
第8回：農作業事故の発生プロセス			
第9回：労働災害をめぐる法令と保険制度			
第10回：農作業安全対策について			
第11回：経営資源の毀損と盗難			
第12回：土地改良施設の毀損と盗難による影響			

第13回：農業農村におけるBCP1：グループ討議

第14回：農業農村におけるBCP2：グループ討議

第15回：総合討議

定期試験

テキスト

資料を配布

参考書・参考資料等

農村地域計画学、渡邊紹裕・星野敏・清水夏樹ほか、朝倉書店

安全四学—安全・安心・ウェルビーイングな社会の実現に向けて、向殿政男ら、日本規格協会

安全はマネジメント—リスクアセスメントの活かし方—、濱田勉、労働調査会

技術者倫理とリスクマネジメント、中村昌允、オーム社

困難な時代でも企業を存続させる!! 「事業継続マネジメント」実践ガイド、田代邦幸、セルバ出版

学生に対する評価

レポート (100%)

授業科目名： フードシステム論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：神代英昭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 身の回りの食生活や食料供給構造、すなわち「フードシステム」に改めて目を向け直す。食と農に関わる問題を身近な問題としてとらえ直し、誰もがフードシステムの一員であることを自覚し、主体的に何ができるのか、何をすべきなのかを考え直すことも目指す。			
授業の概要 農業や食品産業にかかわる様々な主体の相互関係によって成立している「フードシステム」について、その全体構造や変貌メカニズム、現状や今後の展望などについて総合的に学ぶ。			
授業計画 第1回：今日のフードシステムと農業市場 第2回：食生活の変化とその背景・影響 第3回：食の外部化と外食・中食産業 第4回：食品小売業の変化とスーパーマーケット、コンビニエンスストアの成長 第5回：食品製造業の展開 第6回：卸売市場の仕組みと歴史 第7回：青果物のフードシステム 第8回：米のフードシステム 第9回：畜産物のフードシステム 第10回：増える食料・食品輸入 第11回：消費者の意識・行動とフードシステム 第12回：食品の安全・安心問題 第13回：農業生産者の状況と取組み 第14回：日本の農業・食料問題をフードシステムの視点から考え直す（1） 第15回：日本の農業・食料問題をフードシステムの視点から考え直す（2） 定期試験			
テキスト ・清水みゆき・高橋正郎「食料経済（第6版）」、オーム社、2022年。 ・木立真直・坂爪浩史『食料・農産物の市場と流通』、筑波書房、2022年。			
参考書・参考資料等 ・農林水産省「食料・農業・農村白書」、農林統計協会、各年度版。 ・日本農業経済学会編「農業経済学事典」、丸善出版株式会社、2019年。			

学生に対する評価

期末試験 70%、中間レポート 15%、各回の課題 15%

授業科目名： 食と農と地域の社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：西山未真 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 受講者が、講義等で身につけた農学分野の専門知を知識で終わらせることなく、地域社会等での現場の社会問題の解決に活かすための、地域への個々人の関わり方を具体的に考える姿勢を身につけることを目的とする。			
授業の概要 本講義では、地域資源、主に農業や農村資源を活用し、食と農の関係を意識した、地域社会の持続的発展シナリオを考えるために、次の3つの内容を講義する。まず現代社会がどのような道をたどってきたのか、日本社会の経済成長期前後の変化を講義する。次に、現代社会における、農業や農村資源が果たす役割、機能、価値について解説する。さらに、これから社会が進む方向を展望しながら、地域社会の持続的発展のために私たち一人ひとりができることを考える素材を提供する。			
授業計画 第1回：ガイダンス：この授業の受け方 第2回：農業・農村を見る目—2つのカルチャーショックから— 第3回：高度経済成長という時代（1）—都市の変貌、ライフスタイルの変化— 第4回：高度経済成長という時代（2）—農村の変貌、価値観の変化— 第5回：食と農の現在—グローバルフードシステムとローカルフードシステム— 第6回：地域における食と農の結びつき（1）—戦後の食と農の関係の変化— 第7回：地域における食と農の結びつき（2）—オルタナティブな地域運動 北米の事例— 第8回：中間レポート—DVDの視聴とレポート— 第9回：都市と農村の交響—田園回帰の今と未来— 第10回：コミュニティリサーチの手法 第11回：食と農を結ぶ現場から—Covid-19の経験から見えるグローバルとローカル— 第12回：地域社会と個人—グループワークとディスカッション— 第13回：ゲストスピーカーによる講義—食と農の最前線から— 第14回：これからの社会像とそこでの生活者の役割—グローバリゼーションと地域、消費者からフードシチズンへ— 第15回：まとめと最終試験			
テキスト			

各教員が作成したテキスト（資料）を受講生に配布する。

参考書・参考資料等

特に指定しないが、参考図書などは各教員が授業中に紹介する。

学生に対する評価

中間レポートと最終試験で成績評価する（100%）

授業科目名： 農政学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：神代英昭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 農業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・農業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標 現代の食料・農業問題を学ぶとともに、農業政策の歴史とその変遷を理解する。さらに、農政改革・転換や国際貿易協定などの近年の具体的話題についての検証も通じて、農業政策の「理念と現実」を総合的に学習する姿勢を身に着ける			
授業の概要 戦後日本資本主義の展開と対応させながら、主に日本の農政展開について学ぶ。日本の農業政策の基礎理論から現代の課題までを包括的に学ぶ。			
授業計画 第1回：農政学とは何か 農業の特殊性と食料・農業問題の基本構造 第2回：日本農業の構造と特質 農業政策の概要と役割 第3回：戦後の農業構造・農業政策の変化：ビデオ「あるコメ農家と霞ヶ関の半世紀」 第4回：戦後日本の農業政策の展開① 基本法農政の時代 第5回：戦後日本の農業政策の展開② 総合農政・地域農政 第6回：農業基礎理論 ① 地代論・農産物価格論、 第7回：農業基礎理論 ② 労働市場論と農民層分解論 第8回：中間まとめ 食料・農業問題の変化と農業政策の課題に関して 第9回：戦後日本の農業政策の展開③ 農業縮小・グローバル化へ 第10回：戦後日本の農業政策の展開④ 食料・農業・農村基本法 第11回：政権交代（政治システムの転換）と農業政策 第12回：SDGsと日本農業 第13回：農林水産省担当者による「食料・農業・農村白書」最新版の説明（実務家による授業） 第14回：新基本法の改正 食料・農業・農村基本法制定下20年を振り返る 第15回：まとめ 農政学の学びを総括する 定期試験			
テキスト ・田代洋一『食料・農業問題入門』大月書店、2012年。 ・田代洋一『農業政策の現代史』筑波書房、2023年。			
参考書・参考資料等 ・農林水産省「食料・農業・農村白書」、農林統計協会、各年度版。 ・日本農業経済学会編「農業経済学事典」、丸善出版株式会社、2019年。			

学生に対する評価

期末試験 60%、中間レポート 25%、各回の課題 15%

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石川裕一郎 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法の基本概念を修得すること</li> <li>・憲法の重要判例を理解し、批判的に考察できること</li> </ul>			
授業の概要			
<p>憲法とは、国民の人権を保障するために、国家権力を制限し拘束する規範である。講義では、基本的人権や平和主義を中心に検討していく。また、可能な限り最高裁判例等の事例を紹介する。</p>			
授業計画			
第1回：まず、憲法とはどういう場面で使われるルールなのか			
第2回：憲法の基本〈立憲主義〉を理解する			
第3回：日本国憲法の要〈個人の尊重〉〈幸福追求権〉〈公共の福祉〉を理解する			
第4回：「いかなる宗教的活動もしてはならない」のは誰？——憲法の原理と〈判例〉の意義を理解する			
第5回：「国民も、権利を守ってもらうなら、代わりに義務を果たせ」？——人権の不可侵性			
第6回：ここで憲法の基礎知識を整理する——憲法の役割・日本国憲法の構造・憲法と法律の違い ・公務員の憲法尊重擁護義務			
第7回：〈法の下での平等〉と違憲立法審査権			
第8回：刑事裁判と日本国憲法			
第9回：「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」——生存権			
第10回：同性婚と日本国憲法			
第11回：民族差別を煽るのも「表現の自由」か？			
第12回：プライバシー権と報道の自由			
第13回：日本「国民」以外の人の人権も守られるのか？——外国人の人権			
第14回：選挙権と選挙制度			
第15回：まとめ——憲法は、権力から“かけがえのない自分”を守る武器			
定期試験			
テキスト			
特定の教科書は用いず、毎回レジュメ・資料をこちらで用意、配布する。			
参考書・参考資料等			
特に指定しない。			

学生に対する評価

リアクションペーパーの記述状況 80% + 期末試験またはレポート 20% により評価する。

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：綿貫 由美子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法の基本概念を修得すること</li> <li>・憲法の重要判例を理解し、批判的に考察できること</li> </ul>			
授業の概要			
<p>憲法とは、国民の人権を保障するために、国家権力を制限し拘束する規範である。講義では、人権論を中心に検討していく。また、可能な限り最高裁判例等の事例を紹介する。</p>			
授業計画			
第1回：憲法とは何か～近代民主政治の基本理念と立憲主義			
第2回：「日本国憲法」を概観する			
第3回：「日本国憲法（統治）」とは何か			
第4回：「日本国憲法（人権）」とは何か			
第5回：基本的人権の原理・人権の享有主体とその限界			
第6回：包括的基本権と法の下での平等			
第7回：「平等」を考える			
第8回：人権①思想・良心の自由と信教の自由			
第9回：人権②表現の自由を考える			
第10回：人権③表現の自由とその限界			
第11回：人権④人身の自由と刑罰・刑事司法			
第12回：人権⑤「積極的安楽死」を考える			
第13回：人権⑥経済活動の自由と社会権			
第14回：日本国憲法の三原則①国民主権と人権			
第15回：日本国憲法の三原則②平和主義と世界の中の日本			
テキスト			
芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第8版）』岩波書店（2023年）			
参考書・参考資料等			
特に指定しない。			
学生に対する評価			
レポートにより評価する。			

授業科目名：スポーツと健康	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：石井幸司 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
履修した運動種目（ハンドボール）の知識、技能の基本的な能力の修得を通して、心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基盤を養成することを目指す。			
授業の概要			
生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の習得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高める。			
授業計画			
第1回：「スポーツと健康」に関する全体的説明と今後の種目選択			
第2回：ハンドボールに必要な技能の解説			
第3回：4対4のミニゲーム			
第4回：4対3のアウトナンバーゲーム			
第5回：ゴール型のウォームアップゲーム			
第6回：ウォームアップゲームの解説			
第7回：5対5のハンドボール①			
第8回：5対5のハンドボール②			
第9回：ハンドボールに必要な戦術の解説			
第10回：チーム編成及び審判の方法			
第11回：リーグ戦①			
第12回：リーグ戦②			
第13回：トーナメント戦①			
第14回：トーナメント戦②			
第15回：トーナメント戦③及びリフレクション			
テキスト			
特に指定しない。			
参考書・参考資料等			
適宜、資料を配布する。			
学生に対する評価			
実技中のゲームパフォーマンス、チームでの話し合い、出席状況、学習態度等を総合的に評価する。			

授業科目名：スポーツ と健康	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石川稜将 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
履修した運動種目（フィットネス運動）の知識、技能の基本的な能力の習得を通して、心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに、今後に発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基盤を養成することを目指す。			
授業の概要			
生涯にわたりスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の習得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高める。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：身体計測および柔軟性のチェック、今後の活動の進め方について			
第3回：運動時間15-20分程度（マイペース）のウォーキングとジョギングⅠ			
第4回：運動時間15-20分程度（マイペース）のウォーキング・ジョギングと簡単な補強運動Ⅱ			
第5回：運動時間20-30分程度（マイペース）のウォーキング・ジョギングと簡単な補強運動Ⅰ			
第6回：運動時間20-30分程度（マイペース）のウォーキング・ジョギングと簡単な補強運動Ⅱ			
第7回：運動時間30-40分程度（マイペース）のウォーキング・ジョギングと簡単な補強運動Ⅰ			
第8回：運動時間30-40分程度（マイペース）のウォーキング・ジョギングと簡単な補強運動Ⅱ			
第9回：運動時間40-50分程度（マイペース）のウォーキング・ジョギングと簡単な補強運動Ⅰ			
第10回：運動時間40-50分程度（マイペース）のウォーキング・ジョギングと簡単な補強運動Ⅱ			
第11回：運動時間40-50分程度（マイペース）のウォーキング・ジョギングと簡単な補強運動Ⅲ			
第12回：運動時間40-50分程度（マイペース）のウォーキング・ジョギングと簡単な補強運動Ⅳ			
第13回：水中運動またはウォーキング・ジョギングⅠ			
第14回：水中運動またはウォーキング・ジョギングⅡ			
第15回：水中運動またはウォーキング・ジョギングⅢ			
テキスト			
特に指定しない。			
参考書・参考資料等			
適宜、資料を配布する。			
学生に対する評価			
学習に取り組む態度（50%）、実技の状況（30%）、課題・提出物等（20%）で評価する。			

授業科目名：スポーツ と健康	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：菅谷昌広 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標			
履修した運動種目（サッカー）の知識、技能の基本的な能力の修得を通して、心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基盤を養成することを目指す。			
授業の概要			
生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の習得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高める。			
授業計画			
第1回：「スポーツと健康」に関する全体的説明と今後の種目選択			
第2回：ボールファミリア、ボールコントロール、救急救命法、ゲーム			
第3回：ボールリフティング、ドリブル、メディカルの知識、ゲーム			
第4回：パスとシュート、ゲーム			
第5回：技術の構成要素、技術・戦術理論、ゲーム			
第6回：攻撃、守備の個人戦術、審判法、ゲーム			
第7回：攻撃に関するグループ戦術（ポゼッション、ビルドアップなど）、ゲーム			
第8回：守備に関するグループ戦術（チャレンジ&カバーなど）、ゲーム			
第9回：リーグ戦			
第10回：リーグ戦			
第11回：リーグ戦			
第12回：リーグ戦			
第13回：リーグ戦			
第14回：リーグ戦			
第15回：まとめ			
テキスト			
特に指定しない。			
参考書・参考資料等			
適宜、資料を配布する。			
学生に対する評価			
学習に取り組む態度（50%）、実技の状況（30%）、課題・提出物等（20%）で評価する。			

授業科目名：スポーツ と健康	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：久保元芳 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>履修した運動種目（卓球）の知識、技能の基本的な能力の修得を通して、心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基盤を養成することを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の習得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、種目選択</p> <p>第2回：卓球オリエンテーション、アイスブレイク、ラケットによるボール操作、卓球遊び等</p> <p>第3回：フォアハンド、バックハンド</p> <p>第4回：スマッシュ、レシーブ</p> <p>第5回：サーブ、横回転、縦回転、ツッツキ</p> <p>第6回：ダブルスの動き</p> <p>第7回：試合の進め方、戦術、練習試合</p> <p>第8回：リーグ戦①</p> <p>第9回：リーグ戦②</p> <p>第10回：リーグ戦③</p> <p>第11回：リーグ戦④</p> <p>第12回：リーグ戦⑤</p> <p>第13回：トーナメント戦①</p> <p>第14回：トーナメント戦②</p> <p>第15回：授業のまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>特に指定しない。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜、資料を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>学習に取り組む態度（50%）、実技の状況（30%）、課題・提出物等（20%）により評価する。</p>			

授業科目名：スポーツと健康	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：名古屋光彦 担当形態：クラス分け・単独
科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
履修した運動種目（ソフトボール）の知識、技能の基本的な能力の習得を通して、心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基盤を養成することを目指す。			
授業の概要			
生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の習得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高める。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：競技についての基礎知識（演習：教室で開催）			
第3回：送球、捕球の基礎的技術			
第4回：打撃等基礎練習、チーム分け			
第5回：送球、捕球および打撃の応用練習			
第6回：打撃等応用練習			
第7回：ゲーム形式練習 試合形式での技術とルールの確認			
第8回：ゲームの実戦① ゲームの楽しさ・真剣さ			
第9回：ゲームの実戦② ゲームの楽しさ・真剣さ			
第10回：チーム練習 チームでの役割、ゲーム内容のチェック			
第11回：リーグ戦（予選） チームの戦略・戦術①			
第12回：リーグ戦（予選） チームの戦略・戦術②			
第13回：リーグ戦（予選） チームの戦略・戦術③			
第14回：リーグ戦（決勝リーグ）			
第15回：リーグ戦（決勝リーグ） とまとめ			
テキスト			
特に指定しない。			
参考書・参考資料等			
適宜、資料を配布する。			
学生に対する評価			
学習に取り組む態度（50%）、実技の状況（30%）、課題・提出物等（20%）により評価する。			

授業科目名： スポーツと健康	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大津卓也  担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標 履修した運動種目（テニス）の知識、技能の基本的な能力の修得を通して、心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基盤を養成することを目指す。			
授業の概要 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の習得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（種目別受講者の決定） 第2回：安全に受講するための注意事項、グリップの握り方、ラケットイング、グラウンドストローク導入 第3回：フォアハンドストローク導入、経験者：ハーフコートラリー（1）ボールの深さを調節する 第4回：バックハンドストローク導入、経験者：ハーフコートラリー（2）ボールの回転を調節する（トップスピン打法） 第5回：グラウンドストローク、経験者：ハーフコートラリー（3）ボールの回転を調節する（スライス打法） 第6回：サービス導入、シングルス簡易ゲーム（1）ゲームの進め方 第7回：サービスとレシーブ、シングルス簡易ゲーム（2）タイブレークの進め方 第8回：ボレー導入、ダブルス簡易ゲーム（1）、経験者：アプローチショット、ボレー 第9回：スマッシュ導入、ダブルス簡易ゲーム（2）、経験者：ボレー、スマッシュ 第10回：ダブルス試合形式（1）前衛と後衛の役割を確認する、陣形を工夫する 第11回：ダブルス試合形式（2）ポーチとロブを活用する、陣形を変化させて攻守の切り替えを行う 第12回：シングルスおよびダブルスの試合チーム対抗リーグ戦（1） 第13回：シングルスおよびダブルスの試合チーム対抗リーグ戦（2） 第14回：シングルスおよびダブルスの試合チーム対抗リーグ戦（3） 第15回：実技テストまたはレポート			
テキスト 特に指定しない。			
参考書・参考資料等			

「MY SPORTS 2012」大修館書店

学生に対する評価

学習に取り組む態度（50%）、実技の状況（30%）、課題・提出物等（20%）

授業科目名： Integrated English I A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三村千恵子、F AEH ANNA GAIL、スタン オオシマ、瀧澤典子、アルシ ヤガ香澄 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 <b>A. リーディング</b> 1. レベルに合った教材の読解スピードを上げる。 2. レベルに合った教材の文章を読み、読解問題に答える。 3. 主要な読解スキルと戦略を使う。 4. ノートテイキングのスキルと戦略を使う。 5. 読んだ内容の要約を書く。 <b>B. プロセスライティング</b> 1. 適切なスタイルを用いてフォーマルなEメールを書く。 2. 基本的なパラグラフを書く。 3. 構造化されたライティングプロセス（計画、執筆、編集）を理解し、使う。 <b>C. デジタルリテラシー</b> 1. 学術的および社会的目的のために多様なデジタルツールを習得し、デジタルリテラシーを高める。 <b>D. その他</b> 1. 学術的な語彙を増やす。 2. コミュニケーションのための文法力を高める。 3. 異文化コミュニケーションへの理解と知識を深める。 4. 1年次プログラムで扱ったクリティカルシンキングスキルを応用する： 文章を分析して要点、類似点、相違点を見つける。 知識を別の文脈に応用する。 証拠を評価する。 情報を集めて課題に応用する。 情報をもとに自分の意見を形成する。			
授業の概要 この授業は、リスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの4技能を統合的に扱う授業であり、特にアカデミックおよび専門的な場面で必要なリーディングとライティング			

の主要スキルの習得に重点を置いています。この授業では、マルチモーダルアプローチを用いて、主題の把握、詳細の特定、推論、予測、ノートテイキングなどの明示的な読解スキルを育成します。また、学生は計画・下書き・推敲・編集というプロセスアプローチを通じて、効果的なライターになる方法を学びます。さらに、デジタルリテラシー、クリティカルシンキングスキル、学術語彙、一般的な学術スキルの向上も図ります。この授業では、「反転授業（フリップド・クラスルーム）」を採用しており、学生は自宅で教材を視聴し、対面授業では仲間や教員と協力しながら内容を深めていきます。指定された教科書を使った授業内容に加えて、学生はオンライン読書システムを使った多読プログラムを完了する必要があります。また、スピーキング・ラボのセッションへの参加も求められます。

#### 授業計画

第1回：オリエンテーション + EPUUコモンズ/スピーキングラボ見学、自己紹介/教師による活動  
 第2回：PATHWAYS ユニット1 (Read 1)、PATHWAYS U1 + ライティング活動 + クイズ1  
 第3回：フォローアップ動画 + ライティング活動、PATHWAYS U1 (Read 2)  
 第4回：PATHWAYS U1 (Read 2) + クイズ2 + ライティング活動、多読活動  
 第5回：ユニット1の復習 + ライティング活動、PATHWAYS U2 (Read 1)  
 第6回：PATHWAYS U2 + ライティング活動 + クイズ3、フォローアップ動画 + ライティング活動  
 第7回：PATHWAYS U2 (Read 2)、PATHWAYS U2 (Read 2) + クイズ4 + ライティング活動  
 第8回：ユニット2 ライティング活動、ユニット1&2 テスト + 多読活動  
 第9回：PATHWAYS U3 (Read 1)、PATHWAYS U3 ライティング活動 + クイズ5  
 第10回：フォローアップ動画 + ライティング活動、PATHWAYS U3 (Read 2)  
 第11回：PATHWAYS U3 (Read 2) + クイズ6 + ライティング活動、ユニット3 ライティング活動  
 第12回：PATHWAYS U5 (Read 1)、PATHWAYS U5 ライティング活動 + クイズ7  
 第13回：フォローアップ動画 + ライティング活動、PATHWAYS U5 (Read 2)  
 第14回：PATHWAYS U5 (Read 2) + クイズ8 + ライティング活動、ユニット5 ライティング活動  
 第15回：ユニット5 ライティング活動、ユニット3&5 テスト + 多読活動  
 定期試験：共通期末試験 (TOEIC)

#### テキスト

Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking, Book 3, Third Edition  
 M. Vargo, L. Blass, & K. Sherman  
 ISBN: 978-0-357-97992-1

#### 参考書・参考資料等

特に指定しない。

#### 学生に対する評価

活動と参加10%、テスト40%、ライティング課題：20%、リーディング課題：10%、TOEIC：20%  
 本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Integrated English II A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： FAEH ANNA GAIL、峯愛 隣、澤典子、アルシャガ香澄 、三村千恵子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><b>A. リーディング</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>レベルに合った教材の読解スピードを上げる。</li> <li>レベルに合った教材の文章を読み、読解問題に答える。</li> <li>主要な読解スキルと戦略を使う。</li> <li>ノートテイキングのスキルと戦略を使う。</li> <li>読んだ内容の要約を書く。</li> </ol> <p><b>B. プロセスライティング</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>適切なスタイルでフォーマルなEメールを書く。</li> <li>基本的なパラグラフを書く。</li> <li>構造化されたライティングプロセス（計画・執筆・編集）を理解し、使う。</li> <li>複数パラグラフからなるエッセイを書く。</li> </ol> <p><b>C. デジタルリテラシー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学術および社会的な目的のために、多様なデジタルツールを習得し、デジタルリテラシーを高める。</li> </ol> <p><b>D. その他</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学術的な語彙を増やす。</li> <li>コミュニケーションのための文法力を高める。</li> <li>異文化コミュニケーションへの理解と知識を深める。</li> <li>1年次プログラムで学んだクリティカルシンキングスキルを応用する。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、リスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの4技能を統合的に学ぶ授業であり、特にアカデミックおよびプロフェッショナルな場面で必要となるリーディングとライティングの主要スキルの習得に重点を置いています。この授業では、マルチモーダルアプローチを用いて、主題の特定、詳細の把握、推論、予測、ノートテイキングなどの明示的な読解スキルを育成します。また、学生は計画・下書き・推敲・編集というプロセスアプローチを通じて、効果的に書く方法を学びます。さらにこの授業では、学生のデジタルリテラシー</p>			

、クリティカルシンキングスキル、学術語彙、総合的な学術スキルの向上も目指します。授業では「反転授業（フリップド・クラスルーム）」を採用しており、学生は自宅で教材を視聴し、対面授業では仲間や教員と協力して内容を深めていきます。指定された教科書を使った授業内容に加えて、学生はオンライン読書システムを使った多読プログラムを完了する必要があります。また、スピーキング・ラボのセッションへの参加も求められます。

#### 授業計画

第1回：秋学期オリエンテーション、PATHWAYS ユニット6 (Read 1)  
 第2回：PATHWAYS ユニット6 + クイズ1 + ライティング活動、フォローアップビデオ  
 第3回：PATHWAYS ユニット6 (リーディング2) + クイズ2 + ライティング活動  
 第4回：多読活動、ユニット6の復習 + ライティング活動  
 第5回：PATHWAYS ユニット8 (リーディング1)、クイズ3 + ライティング活動  
 第6回：フォローアップビデオ + ライティング活動、PATHWAYS ユニット8 (リーディング2)  
 第7回：PATHWAYS ユニット8 (リーディング2) + クイズ4 + ライティング活動  
 第8回：ユニット6&8 テスト + 多読活動、PATHWAYS ユニット9 (リーディング1)  
 第9回：PATHWAYS ユニット9 + クイズ5 + ライティング活動、フォローアップビデオ  
 第10回：PATHWAYS ユニット9 (リーディング2)、クイズ6 + ライティング活動  
 第11回：ライティング活動、PATHWAYS ユニット10 (リーディング1)  
 第12回：PATHWAYS ユニット10 + クイズ7 + ライティング活動、フォローアップビデオ  
 第13回：PATHWAYS ユニット10 (リーディング2)、クイズ8 + ライティング活動  
 第14回：ユニット9&10の復習、ユニット9&10 テスト + 多読活動  
 第15回：ライティング活動、まとめ  
 定期試験：共通期末試験 (TOEIC)

#### テキスト

Pathways: Reading, Writing, and Critical Thinking, Book 3, Third Edition  
 M. Vargo, L. Blass, & K. Sherman  
 ISBN: 978-0-357-97992-1

#### 参考書・参考資料等

特に指定しない。

#### 学生に対する評価

活動と参加10%、テスト40%、ライティング課題：20%、リーディング課題：10%、TOEIC：20%  
 本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Reading I)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：米山正文、出羽 尚、田村岳充、五十嵐奈央 担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1)一般的なアカデミック語彙を増やす (2)自分のレベルに合ったトピックの文章を読み、理解する (3)内容理解に関する質問に答え、文章についての情報を交換する (4)トピックに関する自分の考えや意見を深め、文章の枠を超えて応用する (5)文章を要約する (6)文章について書いたり、議論したりする			
授業の概要 この授業は、中級から上級レベルの統合型コースであり、英語での読解を主な焦点としています。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：教科書に基づく通常授業 第3回：教科書に基づく通常授業 第4回：教科書に基づく通常授業 第5回：教科書に基づく通常授業 第6回：教科書に基づく通常授業 第7回：教科書に基づく通常授業 第8回：教科書に基づく通常授業 第9回：教科書に基づく通常授業 第10回：学生によるプレゼンテーション 第11回：学生によるプレゼンテーション 第12回：学生によるプレゼンテーション 第13回：学生によるプレゼンテーション 第14回：期末試験 第15回：総まとめ (Wrap-up)			
テキスト 教科書は初回授業前または授業内で案内します。			
参考書・参考資料等			

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業内評価：成績の80%（授業への参加：20%、課題提出：20%、試験：60%）
2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Reading II)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：ベンヤンソン 、アブドゥラドダンゲ 担当形態：単独
科目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1)明示的な読解ストラテジー（戦略）を身につける</p> <p>(2)アカデミックな文章で頻出する語彙や表現など、語彙力を広げる</p> <p>(3)幅広い文化的・社会的・論争的なテーマについての文章を読み、プレゼンテーションを聞く</p> <p>(4)ノートを取り、内容理解に関する質問に答え、要約を行う</p> <p>(5)トピックについて自分の考えや意見を深め、文章の枠を超えて応用する</p> <p>(6)読解の流暢さ（リーディング・フルエンシー）の向上に取り組む</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、英語を読むことによって読解力を養成することを目的としています。授業は二つのセクションで構成されています。一つは教室内での活動で、教科書を使って速く読み、内容の要点を素早く掴む方法を学びます。もう一つは、教室外での読書活動です。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学期のオリエンテーション／Unit 1</p> <p>第2回：Unit 1／語彙クイズ</p> <p>第3回：Unit 2</p> <p>第4回：Unit 2／語彙クイズ</p> <p>第5回：Unit 3</p> <p>第6回：Unit 3／語彙クイズ</p> <p>第7回：Unit 4</p> <p>第8回：Unit 4／語彙クイズ</p> <p>第9回：Unit 5</p> <p>第10回：Unit 5／語彙クイズ</p> <p>第11回：Unit 7</p> <p>第12回：Unit 7／語彙クイズ</p> <p>第13回：語彙と読解活動</p> <p>第14回：復習と演習</p> <p>第15回：期末試験</p> <p>共通TOEICテスト</p>			

テキスト
21st Century Reading 2, Cengage Learning. ISBN: 9781305265707
参考書・参考資料等
特に指定しない。
学生に対する評価
1. 授業内評価：成績の80%（授業参加：15%、クイズ：15%、宿題：10%、語彙ノート：10%、グループ発表：5%、期末試験：25%） 2. TOEICスコア：成績の20% 本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Writing I)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：ジョエル ネフ 、 Sugit Arjon、MORRIS J AMES HARRY
科 目			担当形態：単独
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目 ・外国語コミュニケーション	
授業のテーマ及び到達目標 (1)一般的なアカデミック語彙を増やす (2)ブレインストーミングやライティングの計画方法を学ぶ (3)トピックセンテンス、サポートセンテンス、結論文を含む段落を書く (4)導入・本文・結論の構成を持つエッセイを書く (5)エッセイの編集・推敲を練習する (6)引用や資料を活用し、盗用などの問題を避けながら、明確でアカデミックな文体で書く			
授業の概要 アカデミックなテーマに基づいて、英語でエッセイを書くためのプロセス・アプローチを実践的に学びます。			
授業計画 第 1 回：春学期／秋学期オリエンテーション 第 2 回：Unit 1 エッセイの復習 第 3 回：Unit 2 トピックの選び方 第 4 回：Unit 3 ピアレビュー 第 5 回：Unit 4 リサーチ 第 6 回：Unit 5 アウトライン作成 第 7 回：Unit 6 剽窃を避ける／AI活用の倫理など 第 8 回：テスト①／ライティング課題①提出 第 9 回：Unit 7 リサーチペーパーに使う言語 第 10 回：Unit 8 初稿の作成 第 11 回：Unit 9 本文内引用の方法 第 12 回：Unit 10 アカデミックな言語表現 第 13 回：Unit 11 論文の編集 第 14 回：Unit 12 リサーチ発表 第 15 回：テスト②／ライティング課題②提出 共通TOEICテスト			
テキスト			

Writing Research Papers

ISBN 978-1-380-05926-0

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業内評価：成績の80%（参加30%、毎週の宿題20%、ライティング課題25%、テスト25%）
2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Writing II)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：ジョエル ネフ 、ジェームス ストークス 担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 様々な種類のエッセイを分析する (2) ブレインストーミングやライティングの計画方法を学ぶ (3) トピックに応じた適切な語彙や文法を学ぶ (4) 導入文・サポート文・結論文を含むパラグラフを書く (5) 導入・本文・結論の段落を含むエッセイを書く (6) エッセイを編集し、より良く書き直す練習をする (7) 自分の関心のある分野について、関連する詳細・例・情報源を用いて書く方法を学ぶ			
授業の概要 様々なスタイルの英作文を通して、プロセスアプローチ（計画・下書き・推敲・編集）に基づいたエッセイライティングの練習を行います。			
授業計画 第1回：春学期／秋学期オリエンテーション・Unit 1 & 2 第2回：Unit 3 第3回：Unit 4 第4回：Unit 5 第5回：Unit 6 & Unit 7 第6回：テスト1 第7回：Unit 8 & Unit 9 第8回：ピア・レビュー 第9回：Unit 10 & Unit 11 第10回：ピア・レビュー 第11回：Unit 12 & Unit 13 第12回：ピア・レビュー 第13回：Unit 14 & Unit 15 第14回：ピア・レビュー 第15回：テスト2 共通TOEICテスト テキスト			

Get Your Message Across II: From Paragraph to Essay

by Kate Elwood & Leonid Yoffe

Nan'un-do

ISBN 978-4-523-17727-2

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業内評価：成績の70%（参加30%、宿題20%、エッセイ30%、小テスト20%）
2. TOEICスコア：成績の30%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Public Speaking])	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：スティーブ ド ゥーリー、マイケル ワード
			担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1)プレゼンテーションで使われる語彙、表現、文型の知識を増やす (2)内容を明確に伝えたり、自分の意見を口頭で説得力をもって伝えたりするためのアイデアを整理・準備する (3)メッセージを伝えるために適切なボディランゲージを使う (4)効果的な視覚資料を準備・活用する (5)準備したトピックについて、視覚資料とメモを使って正式なプレゼンテーションを行う (6)プレゼンテーションについての質問に対して明確に答え、聴衆に対応する (7)発表者に対して適切な質問をする			
授業の概要 聴衆の前で話すためのスピーキング力と構成力に重点をおいて学習します。			
授業計画 第1回：春学期/秋学期オリエンテーション・Unit 1 & 2 第2回：スピーチの基本 第3回：ストーリーメッセージ：導入部分 第4回：ストーリーメッセージ：本文 第5回：ストーリーメッセージ：結論 第6回：第一回スピーチ 第7回：ビジュアルメッセージ：効果的な視覚資料 第8回：ビジュアルメッセージ：視覚資料の説明 第9回：準備と第二回スピーチ 第10回：第二回スピーチと復習 第11回：フィジカルメッセージ：姿勢とアイコンタクト 第12回：フィジカルメッセージ：声の抑揚 第13回：フィジカルメッセージ：ジェスチャー 第14回：第三回スピーチ 第15回：第三回スピーチ			

共通TOEICテスト
テキスト LeBeau, Charles. Speaking of Speech: Premium Edition. Tokyo: National Geographic Learning, 2021.
参考書・参考資料等 特に指定しない。
学生に対する評価 1. 授業内評価：成績の80%（参加25%、課題25%、第一回スピーチ15%、第二回スピーチ15%、第三回スピーチ20%） 2. TOEICスコア：成績の20% 本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Presentation])	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：ドビン ジャスティン、イマン グウダ 担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1)プレゼンテーションで使われる語彙、表現、文型の知識を増やす (2)授業のテーマについて自信を持って意見や考えを表現する (3)ブレインストーミングやプレゼンテーションのアウトライン作成の技術を学ぶ (4)PowerPoint、メモカード、ジェスチャー、声の出し方などのプレゼンテーション技術を身につける (5)様々なテーマで自分のプレゼンテーションを計画、構成、発表、評価する (6)個人またはペア・グループで協力し、効果的なプレゼンテーションを準備し発表する			
授業の概要 明確で効果的なプレゼンテーションを行うための構成力およびスピーキングスキルに重点をおいて学びます。			
授業計画 第1回：春学期／秋学期オリエンテーション 第2回：ユニット1：私が尊敬する人 第3回：プレゼンテーション1：「私が尊敬する人」 第4回：ユニット2：理想の休暇プラン 第5回：ユニット2：理想の休暇プラン 第6回：プレゼンテーション2（グループ）：理想の休暇プラン 第7回：ユニット3：現代の若者たち 第8回：ユニット3：現代の若者たち 第9回：プレゼンテーション3（グループ）：現代の若者たち 第10回：ユニット4：説明させてください 第11回：ユニット4：説明させてください 第12回：プレゼンテーション4：「説明させてください」 第13回：ユニット5：私の意見では 第14回：ユニット5：私の意見では 第15回：プレゼンテーション5：「私の意見では」			

共通TOEICテスト
テキスト Present Yourself Level 2, Cambridge University Press ISBN 9781107435780
参考書・参考資料等
学生に対する評価 1. 授業内評価：成績の80%（授業活動50%、リスニング・スピーキング活動中の参加30%、教科書の課題・宿題20%、プレゼンテーション課題50%） 2. TOEICスコア：成績の20% 本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Listening & Speaking [Discussion & Debate])	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：キース ロジャ ー、ジェームス ストークス 担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1)自分の考えや意見を共有するための語彙や表現を学ぶ (2)現在重要とされているトピックについて、積極的にクラスディスカッションに参加する (3)考えを整理し、説明し、根拠を示して、自分の意見を明確に伝える (4)批判的思考力を使って、さまざまな考え方や視点を適切に検討・質問・反論する (5)自分の考えを深め、支えるために、外部の事実や意見を調査・活用する (6)論争的またはデリケートな話題についても、自信を持って自己表現できる力を養う			
授業の概要 自分の意見を述べたりディスカッションを行ったりするためのスピーキング力と構成力に重点をおいて学びます。			
授業計画 第1回：春学期／秋学期オリエンテーション 第2回：Unit 2: 大きいこと・小さいこと？ 第3回：Unit 4: 成功に向かって 第4回：オープニングステートメント 第5回：Unit 5: 生涯独身 第6回：Unit 6: 友達って何のため？ 第7回：Unit 7: 今日のランチは？ 第8回：反論（リバトル） 第9回：Unit 9: 父の世話 第10回：Unit 10: 私の学生生活 第11回：Unit 12: もう一つの未来をつくる 第12回：Unit 20: 母の物語 第13回：テスト準備 第14回：チームディベート 第15回：チームディベート 共通TOEICテスト			

テキスト

Impact Issues 2 (3rd Edition)

New Edition Pearson/Longman

ISBN 9789813134386

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業評価：成績の80%（参加30%、宿題20%、課題25%、期末試験25%）

2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Listening & Speaking [World Englishes])	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：イマン グウダ 、湯澤伸夫、ベンジャミン ブロードベント
			担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1)自分のレベルに合った文化に関するトピックについて、主な考えを議論し、意見を述べ、詳しい情報を交換する</p> <p>(2)英語のさまざまなリズム・強勢・イントネーションのパターンを聞き取り、理解を深める活動を行う</p> <p>(3)世界の多様な英語（ワールド・イングリッシュズ）を聞き取る力を高める</p> <p>(4)グループやペアでの短いプレゼンテーションやスピーキング課題を通して、明瞭な発音を練習・定着させる</p> <p>(5)リーディングやリスニング活動を通して、自分自身および他者の文化への理解を深める</p> <p>(6)アカデミックな語彙力を向上させる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>さまざまなワールド・イングリッシュズ（世界の多様な英語）に触れ、意識を高めることを通して、発音力とリスニング力の向上に取り組みます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：春学期オリエンテーション／授業説明、Unit 1: You (1)</p> <p>第2回：Unit 1: You (2)</p> <p>第3回：Unit 2: Home (家)</p> <p>第4回：Unit 3: Daily Life (日常生活)</p> <p>第5回：Unit 4: Neighborhood (近所)</p> <p>第6回：Unit 5: Work (仕事)</p> <p>第7回：Unit 6: Free Time (自由時間)</p> <p>第8回：Unit 7: Food and Drink (食べ物と飲み物)</p> <p>第9回：Unit 8: Travel (旅行)</p> <p>第10回：Unit 9: Education (教育)</p> <p>第11回：Unit 10: Health (健康)</p> <p>第12回：Unit 11: Numbers and Prices (数と値段)</p> <p>第13回：Unit 12: People (人々)</p>			

第14回：復習①

第15回：復習②

テキスト

World Voices 3, ABAX ELT Publishing

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業評価：成績の80%（中間試験40%、期末試験60%）

2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Reading & Vocabulary)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：アブドゥラ ド ダンゲ, エミリー チュン 担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 頻出する英単語の知識を増やす (2) さまざまな文脈や使い方での語彙の意味を理解する (3) 多様な練習を通して目標語彙の記憶力と想起力を高める (4) レベルに合ったトピックの文章を読み理解する (5) 読んだ内容の要約を準備し、発表する (6) トピックについて自分の考えや意見を深め、本文から離れて応用する			
授業の概要 英語のリーディングやスピーキングで最もよく使われるアカデミック語彙を使う力を高めます。			
授業計画 第1回：学期オリエンテーション 第2回：Unit 1, Reading 1 第3回：Unit 1, Reding 2 第4回：Unit 2, Reading 1 第5回：Unit 2, Reading 2 第6回：Unit 3, Reading 1 第7回：Unit 3, Reading 2 第8回：Unit 4, Reading 1 第9回：Unit 4, Reading 2 第10回：Unit 5, Reading 1 第11回：Unit 5, Reading 2 第12回：Unit 6, Reading 1 第13回：Unit 6, Reading 2 第14回：期末試験 第15回：復習、まとめ			
テキスト Reading and Vocabulary Focus 2 National Geographic			

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業評価：成績の80%（参加20%、語彙クイズ20%、宿題・課題20%、期末試験20%）
2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Language for C ommunication)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：木村崇是, 天沼 実, 岩崎宏之, 長谷川佑介 担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1)一般的なアカデミック語彙を増やす (2)実用的に使える英語文法の知識を確認・向上させる (3)アカデミックリーディングのスキルを習得する			
授業の概要 コミュニケーションのための英語文法に重点を置いた総合コースです。			
授業計画 第1回：ガイダンスおよびいくつかの活動 第2回：自己紹介&インタビュー 第3回：文法 第4回：物語的段落、文法 第5回：基本的な段落構成、文法 第6回：論理的なアイデアの区分、文法 第7回：手順段落、文法 第8回：定義段落、文法 第9回：原因・結果段落、文法 第10回：比較段落、文法 第11回：エッセイ(1)、文法 第12回：エッセイ(2)、文法 第13回：意見エッセイ(1)、文法 第14回：意見エッセイ(2)、文法 第15回：総復習 共通TOEICテスト			
テキスト 教材はeラーニングのウェブサイトにアップロードするか、授業で配布します。			
参考書・参考資料等 特に指定しない。			
学生に対する評価			

1. 授業評価：成績の80%（積極的な参加20%、試験50%（小テスト20%、期末試験30%））
2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Media Literacy )	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：スティーブ ド ゥーリー, キース ロジャー
			担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1)一般的なアカデミック語彙を増やす (2)新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどの本物の英語教材をよりよく理解する (3)英語のインターネットサイトを活用して、最新の話題に関する情報を探し、質問に答える (4)メディア教材からの考えをまとめた短いレポートを書く (5)話し言葉の英語を使って情報や意見を報告・議論する (6)批判的思考力を使ってグローバルな視点を育てる			
授業の概要 語彙の使用と理解力を高めたい学生に向けた授業です。			
授業計画 第1回：春学期／秋学期オリエンテーション、メディアとは？ 第2回：印刷メディア 第3回：印刷メディア 第4回：テレビ&映画 第5回：テレビ&映画 第6回：コマーシャル&インフォマーシャル 第7回：コマーシャル&インフォマーシャル 第8回：ソーシャルネットワーク 第9回：ソーシャルネットワーク 第10回：ブログ 第11回：ブログ 第12回：自作メディアコンテンツ 第13回：自作メディアコンテンツ 第14回：発表 第15回：発表/発表と授業全体の振り返り 共通TOEICテスト			
テキスト 授業の中で、担当教員が提供する。			

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業評価：成績の80%（参加20%、宿題20%、ユニットレポート50%、発表10%）
2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Communication & Culture)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：ジョエル ネフ 、キース ロジャー 担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1)リスニング理解力を向上させる (2)口頭でのコミュニケーション能力を養う (3)英語圏の人々の生活（価値観、習慣、服装、食べ物、人との関わりなど）への理解を深める (4)異文化に関するテーマについて書いたり話し合ったりすることで、自分自身の文化への気づきを得る			
授業の概要 英語のメディア（映画、テレビ、YouTube など）は、言語学習において最も効果的な実践的教材の一つです。そこには本物の言語が使われています。実際の会話と同じように、調整や簡略化がされておらず、自然なスピードで、一般的なアクセントで話されています。また、現在使われているイディオムや表現が含まれているため、現代の英語を知ることができます。 この授業では、メディアを教材として活用することで、学生はコミュニケーション能力を向上させるとともに、異文化理解を深めていきます。			
授業計画 第1回：春学期／秋学期オリエンテーション 第2回：映画ディスカッション①キャラクター 第3回：映画ディスカッション②舞台設定 第4回：映画ディスカッション③プロット 第5回：映画ディスカッション④テーマ 第6回：プレゼンテーション：あらすじ、おすすめ 第7回：プレゼンテーション：あらすじ、おすすめ 第8回：テスト① 第9回：映画ディスカッション⑤-文脈① 第10回：映画ディスカッション⑥-文脈② 第11回：映画ディスカッション⑦-分析と批評 第12回：映画ディスカッション⑧-総合的考察 第13回：プレゼンテーション			

第14回：プレゼンテーション

第15回：テスト②

共通TOEICテスト

テキスト

教員が授業の資料を提供する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業評価：成績の80%（参加20%、宿題20%、プレゼンテーション30%、テスト30%）

2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Career Preparation)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：ベンジャミン ブロートベント、エミリー チュン、ベン ジャンソン、 アブドゥラ ドダング、田所 貴大
			担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1) さまざまな実践的・ビジネスシーンにおいて、コミュニケーションスキルを応用・発展させる (2) ビジネス文書やソーシャルメディアでのライティングスキルを練習する (3) 実践的な場面で使えるプレゼンテーションスキルを身につける (4) TOEICテストでよく扱われるトピックに関連した語彙や表現に重点を置く (5) TOEICテストに向けた自習を促進・強化する			
授業の概要 将来のキャリアに必要なとなる英語力と言語運用能力に焦点を当て、力を養います。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：Unit 1, Part 1 第3回：Unit 1, Part 2 第4回：Unit 1 復習 第5回：Unit 1テスト/Unit 2, Part 1 第6回：Unit 2, Part 2 第7回：Unit 2 復習 第8回：Unit 2テスト/Unit 3, Part 1 第9回：Unit 3, Part 2 第10回：Unit 3 復習 第11回：Unit 3テスト/Unit 4, Part 1 第12回：Unit 4, Part 2 第13回：Unit 4 復習 第14回：Unit 4テスト、プレゼンテーション 第15回：プレゼンテーション、まとめ 共通TOEICテスト			

テキスト

Wide Angle 4 Oxford University Press

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業評価：成績の80%（授業参加20%、Unitテスト30%、宿題・小テスト20%、プレゼンテーション10%）

2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I(E AP Integrated Skill s [World Perspectiv es])	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：マイケル ワー ド、ベン ジャンソン
			担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 技術的な話題についてコミュニケーションをとるための語彙、表現、文法構造を学ぶ (2) レベルに合った内容を聞いて理解し、理解度に関する質問に答える (3) 音声教材の内容をノートに取り、情報を整理する (4) トピックについて話し合い、意見を述べ、情報を交換する (5) レベルに合ったトピックの文章を読んで理解し、質問に答え、内容を応用する (6) 主要な考えと関連する詳細を要約する (7) 授業で扱ったトピックについて文章を書く (8) TOEFLやIELTSなどの国際試験に向けて、試験形式の課題やテスト対策を行う			
授業の概要 これは、すべての学術分野の内容を取り入れたEGAP (English for General Academic Purpose s) コースで、一般的な学術スキルの習得と国際英語試験の準備に取り組みます。			
授業計画 第1回：授業イントロダクション/Unit 1 第2回：Unit 1 第3回：Unit 2 /アクティビティ1 提出 第4回：Unit 2 第5回：Unit 3/アクティビティ2 提出 第6回：Unit 3 第7回：中間試験 第8回：Unit 4 第9回：Unit 4 第10回：Unit 5/アクティビティ3 提出 第11回：Unit 5 第12回：Unit 6/アクティビティ4 提出 第13回：Unit 6 復習 第14回：試験			

第15回：授業全体の振り返り

共通TOEICテスト

テキスト

Perspectives 2 1st Edition, National Geographic

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業評価：成績の80%（参加30%、アクティビティ20%、宿題20%、中間試験10%、期末試験：20%）

2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Integrated Skills [Arts & Sciences])	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：スタン オオシマ、ベン ジャンソン
			担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1)学術的な話題についてコミュニケーションをとるための語彙、フレーズ、文法構造を学ぶ (2)レベルに合った内容を聞いて理解し、理解度に関する質問に答える (3)聞いた内容をノートに取り、情報を整理する (4)トピックについて話し合い、意見を述べ、情報を交換する (5)レベルに合ったトピックの文章を読み、質問に答え、内容を応用する (6)主要な考えと関連する詳細を要約する (7)授業で扱ったトピックについて文章を書く (8)TED Talksの抜粋を検討し、短いプレゼンテーションを計画・発表することで、プレゼンテーションのリテラシーを高める			
授業の概要 これは、芸術・科学の内容を取り入れ、プレゼンテーションを重視した一般的な学術スキルを身につけるEGAP (English for General Academic Purposes) コースです。			
授業計画 第1回：授業イントロダクション 第2回：Unit 1: Lesson A & B、違いを生み出す 第3回：Unit 1: Lesson C & D、違いを生み出す 第4回：Unit 2: Lesson A & B、トレンド 第5回：Unit 2: Lesson C & D、トレンド 第6回：Unit 3: Lesson A & B、生活の向上 第7回：Unit 3: Lesson C & D、生活の向上 第8回：Unit 4: Lesson A & B、ウェブデザイン 第9回：Unit 4: Lesson C & D、ウェブデザイン 第10回：Unit 5: Lesson A & B、コミュニティの設立者たち 第11回：Unit 5: Lesson C & D、コミュニティの設立者たち 第12回：Unit 6: Lesson A & B、明確なコミュニケーション 第13回：Unit 6: Lesson C & D、明確なコミュニケーション			

第14回：試験

第15回：授業全体の振り返り

共通TOEICテスト

テキスト

Keynote 3 1st Edition, National Geographic

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業評価：成績の80%（参加30%、活動20%、宿題25%、テスト25%）

2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Integrated Skills [World Connections])	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：ジョエル ネフ、キース ロジャー 担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 学術的な話題についてコミュニケーションをとるための語彙、フレーズ、文法構造を学ぶ</p> <p>(2) レベルに合った内容を聞いたり視聴したりし、理解度の質問に答える</p> <p>(3) 内容についてノートを取り、情報を整理する</p> <p>(4) 話題について意見を述べたり情報を交換したりして議論する</p> <p>(5) レベルに合ったトピックの文章を読んで理解し、質問に答え、内容を応用する</p> <p>(6) 主なアイデアと関連する詳細をまとめる</p> <p>(7) 授業で扱った話題について書く</p> <p>(8) プレゼンテーションスキルを身につける</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は、すべての学問分野の内容を取り入れたEGAP (English for General Academic Purposes) コースであり、汎用的なアカデミックスキルを養成することを目的としています。特に「話すこと」と「聞くこと」に重点を置いています。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業イントロダクション</p> <p>第2回：Unit 1</p> <p>第3回：Unit 1 TED</p> <p>第4回：Unit 1 Test/ Unit 2</p> <p>第5回：Unit 2 TED</p> <p>第6回：Unit 2 Test/ Presentations</p> <p>第7回：Presentations</p> <p>第8回：Unit 3</p> <p>第9回：Unit 3 TED</p> <p>第10回：Unit 3 Test/ Unit 4</p> <p>第11回：Unit 4</p> <p>第12回：Unit 4 TED</p> <p>第13回：Unit 4 Test/ Presentations</p>			

第14回：Presentations

第15回：授業全体の振り返り

共通TOEICテスト

テキスト

21st Century Communication 2 (Listening, Speaking and Critical Thinking), 1st Edition, National Geographic

ISBN: 9781337275811

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業評価：成績の80%（参加20%、宿題20%、プレゼンテーション30%、テスト30%）
2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Career Preparation [I.C.])	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：斎藤 隆枝 担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1)一般的なアカデミック語彙を増やす (2)実用的な英語文法の知識を深める (3)TOEICテストに必要なリスニング力とリーディング力を向上させる (4)TOEICテストを受けるための有効な戦略を学ぶ			
授業の概要 この授業は、前年度のTOEICスコアが650点に達しなかった国際学部の学生を対象とした必修科目です。将来のキャリアに必要となる英語スキルと言語能力に焦点を当て、それを伸ばしていきます。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：Unit 1, ショッピング 第3回：Unit 2, 交通・街の風景 第4回：Unit 3, 旅行 第5回：Unit 4, レストラン/料理 第6回：Unit 5, 健康 第7回：TOEIC模擬試験・語彙総復習クイズ 第8回：Unit 6, オフィスで 第9回：Unit 7, ビジネス・営業 第10回：Unit 8, メディア・ニュース 第11回：Unit 9, 経済 第12回：Unit 11, 広告 第13回：Unit 4 国際貿易 第14回：TOEIC模擬試験・語彙総復習クイズ 第15回：プレゼンテーション 共通TOEICテスト			
テキスト Winning Formula for the TOEIC® L&R Test, Revised Edition			

Takuya Akaida, Jeffrey M. Bruce,

Cengage Learning

ISBN: 978-4-86312-338-0

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業評価：成績の80%（参加20%、週ごとの小テスト30%、テスト20%、課題20%、プレゼンテーション10%）

2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Advanced English I (EAP Basic 4 Skills )	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：藤井 未也子 担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1)TOEICの形式を理解する (2)リスニングおよびリーディングの文章を理解するための英語力を身につける (3)短い読解文を理解するために必要な基本的な語彙力と文法力を養う (4)TOEICテストに対応するための基本的なコツや戦略を練習する			
授業の概要 この授業は、前年度のTOEICスコアが400点に達しなかった学生を対象とした必修科目です。TOEICで良い結果を出すために、基本的なリスニングおよびリーディングの戦略を練習します。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：Unit 1 観光・ガイドツアー 第3回：Unit 2 レストラン 第4回：Unit 3 第5回：Unit 4 雇用 第6回：Unit 5 エンターテインメント 第7回：TOEIC模擬試験・語彙総復習クイズ 第8回：Unit 6 買い物・購入 第9回：Unit 7 スポーツ・健康 第10回：Unit 8 病院・薬局 第11回：Unit 9 趣味・芸術 第12回：Unit 10 教育・学校 第13回：Unit 11 テクノロジー・オフィス用品 第14回：Unit 12 交通 第15回：TOEIC模擬試験・語彙総復習クイズ 共通TOEICテスト			
テキスト 600点を目指すTOEIC® L&R TEST へのストラテジー PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC® L&R TEST,			

松本恵美子／西井賢太郎／Sam Little共著，成美堂

ISBN：978-4-79197-233-3

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業評価：成績の80%（参加20%、週ごとの小テスト30%、TOEIC模擬試験30%、課題20%）
2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では，指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Honors English I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：BANWELL R ORY SEAN
			担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><b>リスニング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主なポイントやほとんどの詳細を理解し、理解度の質問に答える</li> <li>・内容のノートを取り、自分の言葉で要約する</li> </ul> <p><b>スピーキング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で積極的に議論に参加する</li> <li>・意見を説明したり、2つ以上の理由を添えて質問に詳しく答えたりする</li> <li>・フォーマルなディベートに参加する</li> <li>・プレゼンテーションソフトを使い、視覚資料を用いて正式な発表を行う</li> <li>・ポスター発表を行う</li> </ul> <p><b>リーディング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な話題の文章を理解し、理解度の質問に答え、情報を応用する</li> <li>・主なポイントと関連する詳細を含む要約を作成する</li> </ul> <p><b>ライティング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的に構成された段落を書く</li> <li>・導入部・本文・結論からなる5段落エッセイを書く</li> </ul> <p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミックな語彙を増やす</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>上位レベルの学生は、ディスカッション、リスニング理解、リーディング、ライティングの4技能を英語で使いこなし、授業の課題やプロジェクトを完成させます。さらに、一般的なアカデミック語彙を増やし、汎用的なアカデミックスキルも習得します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業イントロダクション</p> <p>第2回：アカデミックスキル</p> <p>第3回：アカデミックスキル</p> <p>第4回：ポスター発表</p> <p>第5回：Unit 1</p> <p>第6回：Unit 1</p>			

第7回：ディベート準備

第8回：ディベート

第9回：Unit 2

第10回：Unit 2

第11回：Unit 3

第12回：Unit 3、エッセイ提出

第13回：グループプレゼンテーション

第14回：グループプレゼンテーション

第15回：振り返り、まとめ

共通TOEICテスト

テキスト

21st Century Reading 3

National Geographic

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

1. 授業評価：成績の80%（活動および参加度30%、テストおよびクイズ20%、課題50%）

2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： Honors English II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：BANWELL R ORY SEAN
			担当形態：単独
科 目	教免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>この統合型スキルコースでは、高度な英語力を持つ学生が、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能を使って、アカデミック・パーパスの英語を学びます。</p> <p>意見交換のスキル、公的なスピーチやプレゼンテーションのスキル、リサーチライティングのスキルを練習し、興味のある論争的なトピックに関する高度な語彙の活用を高めます。</p> <p>同意・不同意、意思決定、交渉などの言語機能を通じて、コミュニケーションに必要な言語の定着を図ります。</p> <p>取り扱うトピックやディスカッションは、宇都宮大学卒業後のキャリアに必要な批判的思考力やアイデアの分析力を養うことを目的としています。</p>			
授業の概要			
<p>上位レベルの学生は、授業の課題やプロジェクトを完成させるために、英語の4技能（話す・聞く・読む・書く）を活用します。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、イントロダクション、チームビルディング演習			
第2回：アカデミックスキル			
第3回：アカデミックスキル			
第4回：Unit 4			
第5回：Unit 4			
第6回：Unit 5			
第7回：Unit 5			
第8回：Unit 6			
第9回：Unit 6			
第10回：Unit 7			
第11回：Unit 7			
第12回：Unit 8			
第13回：Unit 8, リサーチペーパー提出			
第14回：Unit 9			
第15回：振り返り、まとめ			
共通TOEICテスト			

テキスト

プリント

参考書・参考資料等

学生に対する評価

1. 授業評価：成績の80%（活動および参加度30%、テストおよびクイズ20%、課題50%）
2. TOEICスコア：成績の20%

本授業科目では、指定された受験日のTOEIC-IPの受験が必須要件となります。

授業科目名： データサイエンス入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：神山拓也 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>人文科学／社会科学／自然科学の基本的な知識を身につけ、その過程において宇大スタンダードに明記されている汎用的能力（6つの力）を身につけることを目標とする。具体的には、次の通りである。</p> <p>(1) データリテラシーの習得</p> <p>(1-a) データを適切に取得・可視化し、統計学に基づいて分析することができる（論理的思考力、表現力）。</p> <p>(1-b) 多種多様なデータに触れる機会が多くなった現代の情報化社会において、データをもとに客観的な視点から物事を正しく理解し判断することができる（情報活用力）。</p> <p>(2) 情報リテラシーの習得</p> <p>(2-a) 情報機器の操作法、情報および情報手段を自主的に選択し活用していくための基礎的な能力を身につける（情報活用力）。</p> <p>(2-b) 情報犯罪から身を守るため、そして、知らずして社会的な迷惑を与えたり、不法行為を行ったりしないよう、基本的なエチケットや情報倫理を学び、インターネットの持つ光と陰の両面を理解する（情報活用力）。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>今日の社会はあらゆる分野において、情報通信技術や計測技術の発展により、多種多様な大量のデータで溢れています。そして、「21世紀の石油」とも称されるそれらのデータから価値ある情報を抽出し、それを課題解決や意思決定に活かす一連のプロセスは、一般に「データサイエンス」と呼ばれ、近年その重要性が広く認識されるようになりました。本授業では、データサイエンスの基礎(データサイエンス・AIの概要や留意事項，社会での利活用の例，情報倫理，初歩的なデータ解析・分析手法)に加え、情報リテラシーとして、オフィス系ソフトウェアとウェブブラウザ、電子メールの標準的な使い方とそれらの間の有機的連携方法、ハードウェアの基本的な使い方、情報通信基盤センターPC・学内LAN環境の理解といった内容を、講義と実習を併用した形式で学習します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：データサイエンス(はじめに) ガイダンス、PCの操作・情報リテラシー1（学内PC・ネットワークの利用方法、パスワード変更、電子メール）</p> <p>第2回：PCの操作・情報リテラシー2（タイピング、ネット検索、学術論文・図書検索、情報モラル</p>			

・倫理, UUキャリアナビ等)

第3回: Word 1 (基本操作、文章の作成・編集、表の作成)

第4回: Word 2 (図形・画像の挿入、レポート作成)

第5回: PowerPoint (基本操作、図・オブジェクトの作成)

第6回: Excel 1 (基本操作、表の作成、並べ替え・抽出)

第7回: Excel 2 (関数、グラフの作成、Wordとの連携)

第8回: 振り返りテスト (Wordによる文章作成、Excelによる棒グラフの作成)

第9回: 情報ネットワークにおけるセキュリティの現状と課題 (講師: TKC)

第10回: AIを知り、AI時代を生き抜く (講師: TKC)

第11回: データサイエンス 1 (データサイエンスを学ぶ意義、データの収集と整理)

第12回: データサイエンス 2 (度数分布)

第13回: データサイエンス 4 (大きさと散布度の代表値)

第14回: データサイエンス 5 (相関分析)

第15回: データサイエンス 6 (回帰分析)

テキスト

30時間アカデミック Office 2021-Windows11対応、杉本くみ子・大澤栄子、実教出版

参考書・参考資料等

必要な資料等は配布する。

学生に対する評価

課題の提出 (80%) および授業態度 (20%) で評価する。

授業科目名： データサイエンス入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：水重貴文 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>人文科学／社会科学／自然科学の基本的な知識を身につけ、その過程において宇大スタンダードに明記されている汎用的能力（6つの力）を身につけることを目標とする。具体的には、次の通りである。</p> <p>(1) データリテラシーの習得</p> <p>(1-a) データを適切に取得・可視化し、統計学に基づいて分析することができる（論理的思考力、表現力）。</p> <p>(1-b) 多種多様なデータに触れる機会が多くなった現代の情報化社会において、データをもとに客観的な視点から物事を正しく理解し判断することができる（情報活用力）。</p> <p>(2) 情報リテラシーの習得</p> <p>(2-a) 情報機器の操作法、情報および情報手段を自主的に選択し活用していくための基礎的な能力を身につける（情報活用力）。</p> <p>(2-b) 情報犯罪から身を守るため、そして、知らずして社会的な迷惑を与えたり、不法行為を行ったりしないよう、基本的なエチケットや情報倫理を学び、インターネットの持つ光と陰の両面を理解する（情報活用力）。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>今日の社会はあらゆる分野において、情報通信技術や計測技術の発展により、多種多様な大量のデータで溢れています。そして、「21世紀の石油」とも称されるそれらのデータから価値ある情報を抽出し、それを課題解決や意思決定に活かす一連のプロセスは、一般に「データサイエンス」と呼ばれ、近年その重要性が広く認識されるようになりました。本授業では、データサイエンスの基礎(データサイエンス・AIの概要や留意事項，社会での利活用の例，情報倫理，初歩的なデータ解析・分析手法)に加え、情報リテラシーとして、オフィス系ソフトウェアとウェブブラウザ、電子メールの標準的な使い方とそれらの間の有機的連携方法、ハードウェアの基本的な使い方、情報通信基盤センターPC・学内LAN環境の理解といった内容を、講義と実習を併用した形式で学習します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、PCの操作・情報リテラシー1（学内PC・ネットワークの利用方法、パスワード変更、電子メール）</p> <p>第2回：PCの操作・情報リテラシー2（タイピング、ネット検索、学术论文・図書検索、情報モラル・倫理、UUキャリアナビ等）</p>			

第3回：Word 1（基本操作、文章の作成・編集、表の作成）
第4回：Word 2（図形・画像の挿入、レポート作成）
第5回：PowerPoint（基本操作、図・オブジェクトの作成）
第6回：Excel 1（基本操作、表の作成、並べ替え・抽出）
第7回：Excel 2（関数、グラフの作成、Wordとの連携）
第8回：振り返りテスト（Wordによる文章作成、Excelによる棒グラフの作成）
第9回：情報ネットワークにおけるセキュリティの現状と課題（講師：TKC）（オンデマンド）
第10回：AIを知り、AI時代を生き抜く（講師：TKC）（オンデマンド）
第11回：データサイエンス 1（データサイエンスを学ぶ意義、宇大でのDS教育、データの収集と整理）（オンデマンド）
第12回：データサイエンス 2（度数分布）（オンデマンド）
第13回：データサイエンス 3（大きさと散布度の代表値）（オンデマンド）
第14回：データサイエンス 4（相関分析）（オンデマンド）
第15回：データサイエンス 5（回帰分析）（オンデマンド）
テキスト 『30時間アカデミックOffice2021』（実教出版）
参考書・参考資料等 特に指定しない。
学生に対する評価 授業中の演習課題等での参加態度(30%)と定期的な提出課題(70%)によって評価する。

授業科目名： データサイエンス入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：守山 拓弥 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>人文科学／社会科学／自然科学の基本的な知識を身につけ、その過程において宇大スタンダードに明記されている汎用的能力（6つの力）を身につけることを目標とする。具体的には、次の通りである。</p> <p>(1) データリテラシーの習得</p> <p>(1-a) データを適切に取得・可視化し、統計学に基づいて分析することができる（論理的思考力、表現力）。</p> <p>(1-b) 多種多様なデータに触れる機会が多くなった現代の情報化社会において、データをもとに客観的な視点から物事を正しく理解し判断することができる（情報活用力）。</p> <p>(2) 情報リテラシーの習得</p> <p>(2-a) 情報機器の操作法、情報および情報手段を自主的に選択し活用していくための基礎的な能力を身につける（情報活用力）。</p> <p>(2-b) 情報犯罪から身を守るため、そして、知らずして社会的な迷惑を与えたり、不法行為を行ったりしないよう、基本的なエチケットや情報倫理を学び、インターネットの持つ光と陰の両面を理解する（情報活用力）。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>今日の社会はあらゆる分野において、情報通信技術や計測技術の発展により、多種多様な大量のデータで溢れています。そして、「21世紀の石油」とも称されるそれらのデータから価値ある情報を抽出し、それを課題解決や意思決定に活かす一連のプロセスは、一般に「データサイエンス」と呼ばれ、近年その重要性が広く認識されるようになりました。本授業では、データサイエンスの基礎となる数理的思考に基づくデータ処理・分析手法に加え、情報リテラシーとして、オフィス系ソフトウェアとウェブブラウザ、電子メールの標準的な使い方とそれらの間の有機的連携方法、ハードウェアの基本的な使い方、情報通信基盤センターPC・学内LANの環境の理解といった内容を講義と実習を併用した形式で学習します。情報倫理とWindowsを中心としたオペレーティングシステムについては、講義中に適宜解説します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、PCの操作・情報リテラシー1（学内PC・ネットワークの利用方法、パスワード変更、電子メール）</p> <p>第2回：PCの操作・情報リテラシー2（タイピング、ネット検索、学术论文・図書検索、情報モラル・倫理）</p>			

第3回：Word 1（基本操作、文章の作成・編集、表の作成）
第4回：Word 2（図形・画像の挿入、レポート作成）
第5回：Excel 1（基本操作、表の作成）
第6回：Excel 2（関数、グラフの作成、Wordとの連携）
第7回：Excel 3（集計・統計分析の初歩、または、データベースとしての利用（並べ替え・抽出））
第8回：情報ネットワークにおけるセキュリティの現状と課題（講師：TKC）
第9回：AIを知り、AI時代を生き抜く（講師：TKC）
第10回：データサイエンス1（データサイエンスを学ぶ意義、データの収集と整理）
第11回：データサイエンス2（度数分布、大きさの代表値と散布度の代表値）
第12回：データサイエンス3（相関分析）
第13回：データサイエンス4（回帰分析）
第14回：PowerPoint 1（基本操作、図・オブジェクトの作成）
第15回：PowerPoint 2（画面切り替え効果、アニメーション、プレゼンテーション作成）
テキスト
特に指定しない。
参考書・参考資料等
Office 2021で学ぶコンピュータリテラシー、小野目如快（著）、実教出版
学生に対する評価
提出課題によって評価する。

授業科目名： データサイエンス入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤弘二 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>人文科学／社会科学／自然科学の基本的な知識を身につけ、その過程において宇大スタンダードに明記されている汎用的能力（6つの力）を身につけることを目標とする。具体的には、次の通りである。</p> <p>(1) データリテラシーの習得</p> <p>(1-a) データを適切に取得・可視化し、統計学に基づいて分析することができる（論理的思考力、表現力）。</p> <p>(1-b) 多種多様なデータに触れる機会が多くなった現代の情報化社会において、データをもとに客観的な視点から物事を正しく理解し判断することができる（情報活用力）。</p> <p>(2) 情報リテラシーの習得</p> <p>(2-a) 情報機器の操作法、情報および情報手段を自主的に選択し活用していくための基礎的な能力を身につける（情報活用力）。</p> <p>(2-b) 情報犯罪から身を守るため、そして、知らずして社会的な迷惑を与えたり、不法行為を行ったりしないよう、基本的なエチケットや情報倫理を学び、インターネットの持つ光と陰の両面を理解する（情報活用力）。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>今日の社会はあらゆる分野において、情報通信技術や計測技術の発展により、多種多様な大量のデータで溢れています。そして、「21世紀の石油」とも称されるそれらのデータから価値ある情報を抽出し、それを課題解決や意思決定に活かす一連のプロセスは、一般に「データサイエンス」と呼ばれ、近年その重要性が広く認識されるようになりました。本授業では、データサイエンスの基礎(データサイエンス・AIの概要や留意事項，社会での利活用の例，情報倫理，初歩的なデータ解析・分析手法)に加え、情報リテラシーとして、オフィス系ソフトウェアとウェブブラウザ、電子メールの標準的な使い方とそれらの間の有機的連携方法、ハードウェアの基本的な使い方、情報通信基盤センターPC・学内LAN環境の理解といった内容を、講義と実習を併用した形式で学習します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、PCの操作・情報リテラシー1（学内PC・ネットワークの利用方法、パスワード変更、電子メール）</p> <p>第2回：PCの操作・情報リテラシー2（タイピング、ネット検索、学术论文・図書検索、情報モラル・倫理）</p>			

第3回：Word 1（基本操作、文章の作成・編集、表の作成）
第4回：Word 2（図形・画像の挿入、レポート作成）
第5回：Excel 1（基本操作、表の作成）
第6回：Excel 2（関数、グラフの作成、Wordとの連携）
第7回：Excel 3（集計・統計分析の初歩、または、データベースとしての利用（並べ替え・抽出））
第8回：情報ネットワークにおけるセキュリティの現状と課題（講師：TKC）
第9回：AIを知り、AI時代を生き抜く（講師：TKC）
第10回：データサイエンス1（データサイエンスを学ぶ意義、データの収集と整理）
第11回：データサイエンス2（度数分布、大きさの代表値と散布度の代表値）
第12回：データサイエンス3（推測統計学1：平均値の推定）
第13回：データサイエンス4（推測統計学2：仮説検定）
第14回：データサイエンス5（回帰分析）
第15回：データサイエンス6（データ分析の実践）
テキスト
特に指定しない。
参考書・参考資料等
Office 2021で学ぶコンピュータリテラシー、小野目如快（著）、実教出版
学生に対する評価
提出課題によって評価する。

授業科目名： データサイエンス入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：林宇一 担当形態：クラス分け・単独
科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>人文科学／社会科学／自然科学の基本的な知識を身につけ、その過程において宇大スタンダードに明記されている汎用的能力（6つの力）を身につけることを目標とする。具体的には、次の通りである。</p> <p>(1) データリテラシーの習得</p> <p>(1-a) データを適切に取得・可視化し、統計学に基づいて分析することができる（論理的思考力、表現力）。</p> <p>(1-b) 多種多様なデータに触れる機会が多くなった現代の情報化社会において、データをもとに客観的な視点から物事を正しく理解し判断することができる（情報活用力）。</p> <p>(2) 情報リテラシーの習得</p> <p>(2-a) 情報機器の操作法、情報および情報手段を自主的に選択し活用していくための基礎的な能力を身につける（情報活用力）。</p> <p>(2-b) 情報犯罪から身を守るため、そして、知らずして社会的な迷惑を与えたり、不法行為を行ったりしないよう、基本的なエチケットや情報倫理を学び、インターネットの持つ光と陰の両面を理解する（情報活用力）。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>今日の社会はあらゆる分野において、情報通信技術や計測技術の発展により、多種多様な大量のデータで溢れています。そして、「21世紀の石油」とも称されるそれらのデータから価値ある情報を抽出し、それを課題解決や意思決定に活かす一連のプロセスは、一般に「データサイエンス」と呼ばれ、近年その重要性が広く認識されるようになりました。本授業では、データサイエンスの基礎(データサイエンス・AIの概要や留意事項，社会での利活用の例，情報倫理，初歩的なデータ解析・分析手法)に加え、情報リテラシーとして、オフィス系ソフトウェアとウェブブラウザ、電子メールの標準的な使い方とそれらの間の有機的連携方法、ハードウェアの基本的な使い方、情報通信基盤センターPC・学内LAN環境の理解といった内容を、講義と実習を併用した形式で学習します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：宇都宮大学における情報機器の利用法</p> <p>第2回：情報ネットワークにおけるセキュリティの現状と課題（講師：TKC）</p> <p>第3回：メールの使い方</p> <p>第4回：ワードの使い方</p>			

第5回：パワーポイントの使い方

第6回：AIを知り、AI時代を生き抜く（講師：TKC）

第7回：データハンドリングI

第8回：データハンドリングII

第9回：データハンドリングIII

第10回：プレゼンをしてみようI

第11回：プレゼンをしてみようII

第12回：プレゼンをしてみようIII

第13回：プレゼンをしてみようIV

第14回：プレゼンをしてみようV

第15回：ふりかえりと課題解説

テキスト

授業時間に必要に応じて配布する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

グループ提出課題（30%），個人提出課題（40%），授業参加状況等（30%）により総合的に評価する。

授業科目名： 教育原論（中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：上原秀一 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校、高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 我が国の教育を成り立たせている基本的な論理と、その国際的・歴史的な特徴について、基礎的な知識を修得することを到達目標とする。			
授業の概要 我が国の教育を成り立たせている基本的な論理と、その国際的・歴史的な特徴について、基礎的な知識を与える。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：教育法規の基本構造 第3回：教育基本法の改正1（教育を受ける権利） 第4回：教育基本法の改正2（義務教育と無償教育） 第5回：教育基本法の改正3（教育の中立性） 第6回：学習指導と生徒指導 第7回：諸外国の教育1（初等中等教育） 第8回：諸外国の教育2（高等教育） 第9回：諸外国の教育3（国際教育統計） 第10回：近代西洋教育思想史1（学習論：ロックとルソー） 第11回：近代西洋教育思想史2（公教育論：コンドルセとルペルチエ） 第12回：近代西洋教育思想史3（学校教育論：ヘルバルトとデューイ） 第13回：我が国の教育の歴史1（近代学校制度の成立と展開） 第14回：我が国の教育の歴史2（大正自由教育） 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 教育の理念・歴史（田中智志・橋本美保編、一藝社）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 定期試験（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）			

授業科目名： 教職入門（中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：束原定雄 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校、高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。</li> <li>2) 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。</li> <li>3) 教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。</li> <li>4) 今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。</li> <li>5) 幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。</li> <li>6) 教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。</li> <li>7) 教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。</li> <li>8) 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について理解し、教職への意欲を高める。具体的には、講話とディスカッション、学校見学等を通して、教職の意義等を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 高等学校の概要</p> <p>第3回 中学校の概要</p> <p>第4回 学級経営</p> <p>第5回 校務分掌、組織の一員としてのチーム学校運営への対応について</p> <p>第6回 授業づくり、学習指導</p> <p>第7、8回 学校見学（中学校、高等学校）</p> <p>第9回 学び続ける教師とは</p> <p>第10回 教員が抱える諸問題について</p> <p>第11回 生徒に関する諸問題について</p> <p>第12回 教育法規</p> <p>第13回 専門職としての教師とは</p> <p>第14回 教育改革と教師の未来</p>			

**第15回 まとめ**

## テキスト

授業で指定する。

## 参考書・参考資料等

授業で指定する。

## 学生に対する評価

全ての活動を体験することが評価の前提条件となる。活動から学んだことを「教育実践ノート」への記録や「目標と振り返りシート」の記入によって「ポートフォリオファイル」としてまとめる。ポートフォリオファイルの完成をもって単位を認定する。

授業科目名： 教育の制度と経営 (中・高)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小野瀬 善行 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目 (中学校、高等学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>学校教育に関する制度的、経営的な事項について基礎的な知識を身につけるとともに、学校教育をめぐる現代的な課題について理解を深めることが到達目標となる。とりわけ学校と地域の連携の意義や学校安全への対応の重要性、高校改革の今日的意味について自ら思考・判断・表現できること目的とする。</p>			
授業の概要			
<p>公教育制度の基本原則と役割、発達段階に応じた教育制度の歴史、構造、理念、現状、課題について講義を行う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：教育制度の社会的意義について理解をする。各国において公教育制度が導入された経緯と意義および課題について学習する。</p> <p>第2回：学校教育法を中心に、教育制度を支える法制度の基本的な知識を理解する。</p> <p>第3回：義務性・中立性・無償性といった教育制度の背景にある基本原則について理解を深める。</p> <p>第4回：日本における教育体系の特徴と課題について、比較教育の観点から確認し、理解をする。</p> <p>第5回：特別支援教育制度を事例として、日本における障害者の権利を保障する教育制度の特質と課題について理解する。</p> <p>第6回：公教育制度と学校経営の意義と課題について、戦後日本における学校経営をめぐる論点を学び、理解する。</p> <p>第7回：公教育制度の経営について教育委員会が果たす役割について、基本的な法制とこれまでの経緯も含めて理解する。</p> <p>第8回：教職員の種類と職務および教職員の服務上の義務について理解する。</p> <p>第9回：学校運営協議会をはじめとする地域や保護者の学校経営参加について基本的な法制とこれまでの経緯を理解する。</p> <p>第10回：学校評価について基本的な法制とこれまでの導入経緯を学び、学校経営におけるPDCAサイクルの有用性について理解する。</p> <p>第11回：学校安全について学校保健安全法などの基本的な法制について理解し、代表的な判例を分析し、安全配慮義務等について理解する。</p> <p>第12回：小中一貫教育や中高一貫教育などの導入を事例として、教育制度の複線化を進める改革のねらいと課題について理解する。</p>			

第13回：大学入試制度改革を事例として、児童生徒に求められる能力のとらえ方や選抜方法について理解を深める。

第14回：高校改革の事例についてまとめ、普通科の将来像について理解を深める。

第15回：講義のまとめを行い、現代の学校制度の意義と課題についてふりかえり、教職員をめざすにあたって必要な課題を見いだす。

定期試験

テキスト

藤井穂高編著『教育の法と制度』ミネルヴァ書房 2018年

参考書・参考資料等

『教育小六法』学陽書房

学生に対する評価

定期試験40%、講義中のグループワークへの参加・貢献度30%、小レポート30%

授業科目名： 教育社会学（中・高）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小原一馬 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校、高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む）		
<p>授業の到達目標及びテーマ 社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、ならびにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。また学校と地域の連携や危機管理についても理解する。</p>			
<p>授業の概要 社会学の二つの考え方（方法論的個人主義と方法論的全体主義）を軸として、教育に関わる現象を社会的に捉える方法を示し、パワーポイントによる説明と、グループの話し合いで授業を進める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育社会学の考え方 方法論的個人主義と、方法論的全体主義</p> <p>第2回：いじめの社会学1 方法論的個人主義の見方</p> <p>第3回：いじめの社会学2 方法論的全体主義の見方</p> <p>第4回：日本のいじめの特徴 ヨーロッパのいじめとの比較</p> <p>第5回：日本社会の「空気」と、若者の自我の変容</p> <p>第6回：日本の教育と社会構造（アメリカとの比較）個人主義と集団主義</p> <p>第7回：スクールカーストの社会学1 スクールカーストの誕生</p> <p>第8回：スクールカーストの社会学2 スクールカーストへの対処</p> <p>第9回：社会的考え方と、日本の社会科教育</p> <p>第10回：スウェーデンの社会科教科書 政治参加教育</p> <p>第11回：PISAと全国学力テスト、ゆとり教育 「主体的・対話的で深い学び」</p> <p>第12回：情報化社会と若者の人間関係 SNSの影響</p> <p>第13回：教員の多忙化と部活動の歴史</p> <p>第14回：学校と地域の連携 学校外の居場所づくりから</p> <p>第15回：学校安全への対応 防犯・防災教育と町づくりから 全体の振り返り</p>			
テキスト 特に用いない。			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小原一馬『私たちがうまくいくかわからないことに取り組めないわけ——日本の教育の社会的背景と対処方法』インプレスR&amp;D</p>			
学生に対する評価 授業時の発言20%、小レポート20%、最終レポート60%			

授業科目名： 教育心理学（中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮代こずゑ 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校、高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。また児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。			
授業の概要 幼児・児童・生徒（障害をもつ子どもを含む）の成長と発達、学習と学習指導、パーソナリティ、適応、測定と評価について講義します。			
授業計画 第1回：教育心理学とは 第2回：発達とは 第3回：発達の諸相 第4回：学習とは 第5回：学習のプロセス 第6回：障害のある幼児・児童及び生徒の発達と学習（1）：心身の発達 第7回：障害のある幼児・児童及び生徒の発達と学習（2）：学習の過程 第8回：学習指導の方法 第9回：知能の心理学 第10回：動機付けの心理学 第11回：パーソナリティの心理学 第12回：適応の心理学 第13回：学級集団と学習指導 第14回：測定・教育評価の心理学 第15回：問題行動の心理学 定期試験			
テキスト なし（授業中に資料を配布）			
参考書・参考資料等 やさしい教育心理学 第四版（鎌原 雅彦・竹綱 誠一郎、2015、有斐閣アルマ）			
学生に対する評価 参加態度（40%）、期末試験成績（60%）を総合評価。			

授業科目名： 特別支援教育基礎論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：齋藤大地 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校、高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育に関する基本的枠組みを自身のうちに形成することを目標とする。			
授業の概要 主として初めて特別支援教育を学ぶ人を対象に、障害の捉え方、障害がある子どもおよび特別な配慮を必要とする子どもを理解し、教育的対応を進めるうえでの基礎的な事項について概説し、特別支援教育についての基本的知識と関心を深めることを目的とする。本授業は、これから特別支援教育の専門科目を学ぶための入門編となる内容である。なお、本授業は、中学、高校の教員免許取得を希望するものを念頭においた内容とする。			
授業計画 第1回：特別支援教育の制度の理念や仕組み（「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容含む） 第2回：わが国の特別支援教育の現状と課題（「障害は無いが困難を抱える子どもの支援」を含む） 第3回：視覚障害、聴覚障害のある子どもの理解と支援 第4回：知的障害のある子どもの理解と支援 第5回：肢体不自由のある子ども、病弱の子ども理解と支援 第6回：発達障害のある子どもの理解と支援 第7回：世界のインクルーシブ教育の現状			
テキスト 特になし。資料は適宜、配布する。			
参考書・参考資料等 全国特別支援学校長会「介護等体験ガイドブック フィリア」ジアース教育新社			
学生に対する評価 レポート（20%）、試験（80%）の結果を総合して評価する。			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：丸山剛史 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校、高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業の到達目標及びテーマ <p>(1) 教育課程とは学校による子どもの人格形成設計ないしは子どもの人格と学力の統一的発達のプログラムであることがわかる。</p> <p>(2) 各学校は、教育課程の基準としての学習指導要領にもとづき、教育課程を編成しており、教育課程は学校により異なっていることがわかる。</p> <p>(3) カリキュラム・マネジメントの方法及び意義がわかる。</p>			
授業の概要 <p>授業では、各回のテーマに関する講義を中心としつつも、意見発表・討議を行いながら、教育課程とその編成及びカリキュラム・マネジメントに関する意義、歴史的背景、現状、論点、課題に関して理解を深める。</p>			
授業計画 <p>第1回： 教育課程とは、教育課程はいかに編成されているか</p> <p>第2回： 学校制度と教育課程</p> <p>第3回： 学習指導要領とその変遷（中学校・高等学校を中心に）</p> <p>第4回： 教科・科目と領域（道徳・総合的な学習の時間等）の関係（中学校・高等学校に限定して）</p> <p>第5回： 学校から職業への移行、学校の教育課程の意味</p> <p>第6回： 学力論と教育実践（中学校・高等学校を中心に）</p> <p>第7回： カリキュラム・マネジメントと教育条件整備</p> <p>第8回： カリキュラム評価、まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト <p>特に指定しない。</p>			
参考書・参考資料等 <p>平原春好『日本の教育課程』（国土社）、文部科学省『中学校学習指導要領』、同『高等学校学習指導要領』（いずれも最新版)</p>			
学生に対する評価 <p>定期試験等の結果に基づいて行う。</p>			

授業科目名： 総合的な学習の時間の指 導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：川島芳昭 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目（中学校、高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な探究の時間の指導法（高等学校）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>(1) 総合的な学習の時間の意義と原理</p> <p>1) 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資 質・能力の育成の視点から理解している。</p> <p>2) 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際 の考え方や留意点を理解している。</p> <p>(2) 総合的な学習の時間の指導計画の作成</p> <p>1) 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と 、その具体的な事例を理解している。</p> <p>2) 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの 重要性とその具体的な事例を理解している。</p> <p>(3) 総合的な学習の時間の指導と評価</p> <p>1) 探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。</p> <p>2) 総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解 している。</p>			
授業の概要			
<p>中・高等学校で実施されている「総合的な学習の時間」の学習指導を実践するために必要な「 探究的な学び」や「評価方法」などの知識・技能を習得し、具体的な授業設計ができることを 目指す。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション、学習指導要領における総合的な学習の時間の内容・方法</p> <p>第2回：総合学習の歴史と教育課程における位置づけ、総合学習の代表的実践の検討</p> <p>第3回：総合学習の模擬実践</p> <p>第4回：総合的な学習の時間の実践、年間指導計画と単元計画の書き方（1）</p> <p>第5回：総合的な学習の時間の実践、年間指導計画と単元計画の書き方（2）</p> <p>第6回：総合的な学習の時間における評価の在り方</p> <p>第7回：課題解決と情報メディア活用の実践（1）情報活用能力の育成との対応、実践事例と考え方</p>			

第8回：課題解決と情報メディア活用の実践 (2) 情報メディアの活用、課題演習 (グループワーク)  
定期試験は実施しない

テキスト

今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 (中学校編) 教育出版(株)

今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開 (高等学校編) 教育出版(株)

文部科学省「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」 (新学習指導要領)

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」 (新学習指導要領)

参考書・参考資料等

授業の中で随時紹介及び配付

学生に対する評価

授業設計、評価方法等に関する課題3種類 (各30%) と受講態度 (10%) を統合して評価

授業科目名：特別活動 論（中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：丸山剛史 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 特別活動は、学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事から構成されていることがわかる。</p> <p>(2) 特別活動では、学校・学級における生徒の共同の生活の向上や理想・利益の追求に取り組み、人権・人格を尊重し、統治的能力を形成し、広範多様な交友関係を育成・拡大し、市民社会を視野に入れた道徳性・文化性を発達させることが重要であることがわかる。</p> <p>(3) 特別活動の指導計画・学習指導案を適切に作成することができる。</p>			
授業の概要			
授業では、各回のテーマに関する講義を中心としつつも、1) 修学旅行の指導計画作成と模擬遠足、そして指導計画の評価、2) 話し合い活動の実践などの活動を行い、特別活動の意義、歴史的背景、現状、論点、課題に関して理解を深める。			
授業計画			
第1回： 教育課程における特別活動の位置づけ、特別活動の教育目標			
第2回： 特別活動の内容と構成、歴史（中学校・高等学校を中心に）			
第3回： 学級・ホームルーム活動、生徒会活動の理論と実践（中学校・高等学校に限定して）			
第4回： 学校行事の理論と実践（Ⅰ）：儀式的行事、健康安全・体育的行事（中学校・高等学校に限定して）			
第5回： 学校行事の理論と実践（Ⅱ）：旅行・宿泊的行事（中学校・高等学校に限定して）			
第6回： 学校行事の理論と実践（Ⅲ）：文化的行事（中学校・高等学校に限定して）			
第7回： 学校行事の理論と実践（Ⅳ）：勤労生産・奉仕的行事（中学校・高等学校に限定して）			
第8回： 特別活動の教育評価、教育条件整備（家庭・地域住民や関係機関との連携を含む）			
定期試験			
テキスト 指定しない			
参考書・参考資料等 日本特別活動学会監修『三訂キーワードで拓く新しい特別活動』（東洋館出版社）、文部科学省『中学校学習指導要領』、同『高等学校学習指導要領』（いずれも最新版）			
学生に対する評価 定期試験（50%）、最終レポート（50%）			

授業科目名： 教育の方法・技術 (中・高)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：丸山剛史 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(中学校、高等学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 これからの社会を担う生徒たちに求められる「資質・能力」を育成するために必要な教育の方法・技術(情報機器及び教材の活用を含む)に関する基礎的な知識・技能を身につける。			
授業の概要 授業では、①教育方法・教育技術の意義、②歴史的背景、③現状、④論点について講義を行う。			
授業計画 第1回：世界の「学力」観の変容 第2回：「経験主義」に基づく教育の方法・技術 第3回：「系統主義」に基づく教育の方法・技術 第4回：「学び合い」・「協働的な学び」、「プロジェクト型の学習」 第5回：「社会に開かれた教育課程」を意識して、新聞記事を中心に、多様なメディアを活用することで子供達の関心を高めながら、資質・能力を育成していくための教育の方法・技術 第6回：「カリキュラムマネジメント」「社会に開かれた教育課程」の視点をふまえた、豊かな資質・能力を育成するための教育の方法・技術 第7回：模擬授業、模擬授業の「教育方法・技術」の評価及び評価方法についての検討、教育の方法・技術におけるPDCAサイクル 第8回：これからの時代に必要な「資質・能力」を育成していくための教育方法・技術についての総括的な検討			
テキスト：特に指定しない。			
参考書・参考資料等：佐藤学『教育の方法』(左右社)、文部科学省『小学校学習指導要領』、同『中学校学習指導要領』、同『高等学校学習指導要領』(いずれも最新版)			
学生に対する評価 定期試験等の結果に基づいて行う。			

授業科目名： ICTを活用した教育 の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：川島芳昭 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目（中学校、高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1) 情報通信技術活用の意義と理論を理解する</p> <p>2) 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する</p> <p>3) 生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための基礎的な指導法を理解する</p>			
授業の概要			
<p>情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、中・高等学校の全ての教員に必要なICTを活用した教育の意義やICTの必要性を理論的に解説します。また、ICTを効果的に活用した学習指導や校務の推進の方法、さらに情報活用能力（情報モラル含）の育成方法について具体的に解説します。</p>			
授業計画			
<p>第1回： 授業の目的と進め方，準備物等に関する説明</p> <p>第2回： 教育の情報化と社会的背景</p> <p>第3回： ICT機器の活用法（機器の種類と特徴，学習指導における活用方法）</p> <p>第4回： ICT機器の活用法（教育的効果と校務支援での活用）</p> <p>第5回： オンライン教材の種類と特徴</p> <p>第6回： 情報活用能力（情報モラル含）の育成方法と注意点</p> <p>第7回： ICTを活用した指導法の設計と授業評価</p> <p>第8回： まとめ</p> <p>定期試験は行わない</p>			
テキスト			
<p>講義または演習に必要な資料は，c-Learningシステムを使ってその都度提供する。</p>			
参考書・参考資料等			
<p>文部科学省（2018）中学校学習指導要領(平成29年告示) 東山書房</p> <p>文部科学省（2021）. 教育の情報化に関する手引―追補版―(令和2年6月)</p> <p>その他の参考書・参考資料等については随時、紹介する</p>			
学生に対する評価			
<p>レポート50%，演習課題50%（25%/回）を総合して評価する。</p>			

授業科目名： 生徒指導（中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：久保田 愛子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校、高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校は知識を身に付けさせるだけの場所ではない。健全な社会人格上の成長を促すこともまた、学校の重要な役割である。そして、その重要な役割を担うのが生徒指導である。そこで、本講義では、生徒指導の核となる考え方を理解した上で、生徒指導に関わる学校で生じている現代的な諸課題を学び、理論的な対応の指針を形成することを目的とする。</p> <p>到達目標は以下3点である。</p> <p>（1）生徒指導の目的と意義を説明することができる。</p> <p>（2）他教職員や関係機関と連携して組織的に生徒指導を進める意義とその具体的な方法を説明することができる。</p> <p>（3）学校で生じている諸課題に対して生徒指導的な観点に立って対応の指針をもち、他者と意見交換することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>まず、生徒指導の意義や教育課程上の位置づけについて、理論的な知識を習得する。その上で、すべての児童生徒を対象とした生徒指導の進め方、児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の形態ならびに、そこでの対応の仕方について、校内外の連携の重要性をおさえながら、生徒指導の理想的な在り方について理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業ガイダンス・生徒指導の意義</p> <p>第2回：生徒指導の教育課程上の位置づけと学校体制</p> <p>第3回：生徒指導の指導原理</p> <p>第4回：発達支持的生徒指導の理解</p> <p>第5回：生徒指導上の課題の理解①：いじめ</p> <p>第6回：生徒指導上の課題の理解②：不登校</p> <p>第7回：生徒指導上の課題の理解③：今日的な課題</p> <p>第8回：生徒指導上の課題に関するディスカッション</p>			
<p>テキスト</p> <p>・「生徒指導提要（改訂版）」（令和4年12月 文部科学省）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>・「生徒指導・進路指導の理論と実際」（河村 茂雄編，図書文化）</p>			

学生に対する評価

授業への参加態度（リフレクションペーパー・課題の質、講義・グループワーク等での積極的な態度）40%，最終レポート60%

授業科目名： 教育相談（中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：川原誠司 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。不登校や虐待といった象徴的現象にとどまらず、全ての生徒の様々な心理的状態を直視し、掘み、次なる方向性に向けて教師と生徒とが共に進むことは重要である。このような教育相談について本授業ではその理論的な視点や基本的方法について理解することを目的とする。</p>			
授業の概要			
<p>学校における教育相談の意義と目的を理解した上で、教育相談を進める際に必要な基礎的知識、生徒の状態や症状に対する基本的視点について学ぶ。さらに、生徒への対応としてカウンセリングの基本的態度（受容、傾聴、共感的理解、純粋性）を含めたいくつかの心理療法の知見について学ぶ。また、校内連携や学校外機関との連携についての基本的知識を習得する。</p>			
授業計画			
第1回：教育相談の理論（1）：ストレス過程の全体像とストレスナーについて			
第2回：教育相談の理論（2）：ストレス反応と個人的処理要因について			
第3回：教育相談の理論（3）：個人的処理要因の残りどストレス過程の全体像			
第4回：教育相談の理論（4）：子どもの示す状態や行動の理解①—外顕化と内潜化—			
第5回：教育相談の理論（5）：子どもの示す状態や行動の理解②—専門的症状より—			
第6回：教育相談の展開（1）：校内連携の理解			
第7回：教育相談の展開（2）：学校外機関との連携—連携にあたってのポイント—			
第8回：教育相談の展開（3）：学校外機関との連携（つづき）—各管轄省庁の機関の理解—			
第9回：教育相談の展開（4）：校内連携、学校外機関との連携についてのアクティブラーニング			
第10回：教育相談の方法（1）：教育相談に役立つ心理療法的観点①—精神分析的療法—			
第11回：教育相談の方法（2）：教育相談に役立つ心理療法的観点②—行動療法—			
第12回：教育相談の方法（3）：教育相談に役立つ心理療法的観点③—クライエント中心療法—			
第13回：教育相談の方法（4）：教育相談に役立つ心理療法的観点④—クライエント中心療法のつづき—			
第14回：教育相談の方法（5）：教育相談に役立つ心理療法的観点⑤—カウンセリングミニ演習—			
第15回：教育相談の方法（6）：教育相談に役立つ心理療法的観点⑥—他の心理療法や心理教育—			
定期試験			

テキスト
特定の教科書は用いない。
参考書・参考資料等
参考書等は適宜紹介する。
学生に対する評価
授業出席ならびに宿題提出は評価を受けるための前提条件である。その上で、実際の評価は「（１）授業中の意欲的態度や提出宿題の内容」と「（２）評価のための試験やレポートの結果」とを合わせておこなう。目安としては、（１）が30%、（２）が70%である。

授業科目名： 進路指導（中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：久保田 愛子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校、高等学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校は知識を身に付けさせるだけの場所ではない。長期的展望に立ち社会との接続を意識して社会人格上の成長を促すこともまた、学校の重要な役割である。そして、その重要な役割を担うのが進路指導である。そこで本講義では、進路指導の核となる考え方を習得した上で、学校で学ぶことと社会との接続を意識した教育実践の在り方について理解を深めることを目的とする。</p> <p>到達目標は以下3点である。</p> <p>(1) 進路指導の目的と意義を説明することができる。</p> <p>(2) キャリア・ガイダンスとキャリア・カウンセリングの実践例について、例示することができる。</p> <p>(3) 学校で学ぶことと社会との接続を意識した教育実践について、その具体的な方法を説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>まず、進路指導の意義や教育課程上の位置づけについて、理論的な知識を習得する。その上で、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力について理解を深め、学校で学ぶことと社会との接続を意識した教育実践について、その具体的な方法を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業ガイダンス・進路指導・キャリア教育の定義と意義</p> <p>第2回：教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ</p> <p>第3回：基礎的汎用的能力を育てるキャリア教育</p> <p>第4回：キャリア・カウンセリングの実践</p> <p>第5回：キャリア・パスポートの活用</p> <p>第6回：キャリア・ガイダンスの実践</p> <p>第7回：職業に関わる体験活動</p> <p>第8回：計画された偶発性理論とキャリア教育</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし（授業で配布する資料を用いる）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省「小学校キャリア教育の手引き」（2022），同「中学校・高等学校キャリア教育の</p>			

手引き」(2023)

学生に対する評価

授業への参加態度(リフレクションペーパー・課題の質, 講義・グループワーク等での積極的な態度) 40%, 最終レポート60%

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中・高）		単位数：2単位		担当教員名：関口 健一	
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
<p>受講者数 20人</p> <p>5グループ前後（1グループ4人～5人程度）を教科横断の体制で指導する。</p>					
<p>教員の連携・協力体制</p> <p>本授業は、全学教職課程共通として開設することから、他学部(国際学部・共同教育学部)との協力体制のもと、教育学部附属学校園・栃木県教育委員会・宇都宮市教育委員会とも連携協力しながら、教職センター（センター長：理事）が実施母体となる。</p> <p>なお、教科に関する科目の担当者として、共同教育学部教員が、各グループに1～2名ずつつき、専門的な立場から支援・助言を行う。附属学校教員は、模擬授業の指導案の立案及び授業準備の指導、授業参観の受入体制を整える。</p>					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>模擬授業・研究授業等の実践を通して、子ども理解、教職への使命感・責任感、教育的愛情、対人的関係能力、教科指導にかかわる自らの資質能力を振り返り、最終確認する。それにより、教職に対して自信を持って臨めるよう、教員として最小限度必要な資質能力の育成を到達目標とする。</p>					
<p>授業の概要</p> <p>これまでに習得した理論的知識・技能、実践的指導力を「学びの軌跡（履修カルテ）」及び「ポートフォリオファイル」により振り返り、主に模擬授業・研究授業等の実践を通して、子ども理解、教職への使命感・責任感、教育的愛情、対人的関係能力、教科指導にかかわる資質を確認し、向上させる。</p>					
<p>授業計画</p> <p>第1回：「教職実践演習授業要覧」の内容を元に授業の意義、目的、進め方、評価等についてのガイダンス（全体）</p> <p>第2回：栃木県の教育現場（教員の勤務、ICT活用、子どもの多様性と社会の変化への対応）に関する講話</p> <p>第3回：「学級経営」に関する講話、学級経営案作成実習</p> <p>第4回：「学校保健」に関する講話</p> <p>第5回：「学びの軌跡」、「ポートフォリオファイル」に基づく、教職課程における到達度の確認（中間振り返り）</p> <p>第6回：ワークショップ「学力向上にどう取り組むか（授業改善、ICT活用等）」</p> <p>第7回：事例研究「児童生徒指導（いじめ、体罰等）、保護者対応」</p> <p>第8回：附属小学校・附属中学校公開研究会への参加</p> <p>第9回：附属小学校・附属中学校公開研究会への参加</p> <p>第10回：模擬授業教材研究</p> <p>第11回：模擬授業の内容検討、模擬授業指導案の作成</p> <p>第12回：模擬授業の内容検討、模擬授業指導案の作成</p> <p>第13回：模擬授業の実践</p>					

<p>第14回：模擬授業の実践</p> <p>第15回：「学びの軌跡」、「ポートフォリオファイル」に基づく、これまでの教職課程における到達度の評価（自己評価、他者評価、教員評価）</p> <p>定期試験は実施しない</p>
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>○教職実践演習授業要覧：授業時に配付する。</p> <p>○学びの軌跡（履修カルテ）：必要事項を記入済みであること。</p> <p>○ポートフォリオファイル：これまでの教職課程で積み上げてきたもの。</p> <p>○GIGAスクール構想の実現：GIGAスクール実現の全体概要（文部科学省HP）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>作成したワークシート、指導案、模擬授業、振り返りとまとめ、「PDCA+C」の過程を教職実践演習記録に基づいて自己分析し、今後の教職キャリアにおいてどのように発展させていくのかに関するレポート等の内容を総合的に評価する。</p>

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。